

252.5

299



* 0053299000 *

0053299-000

252.5-299

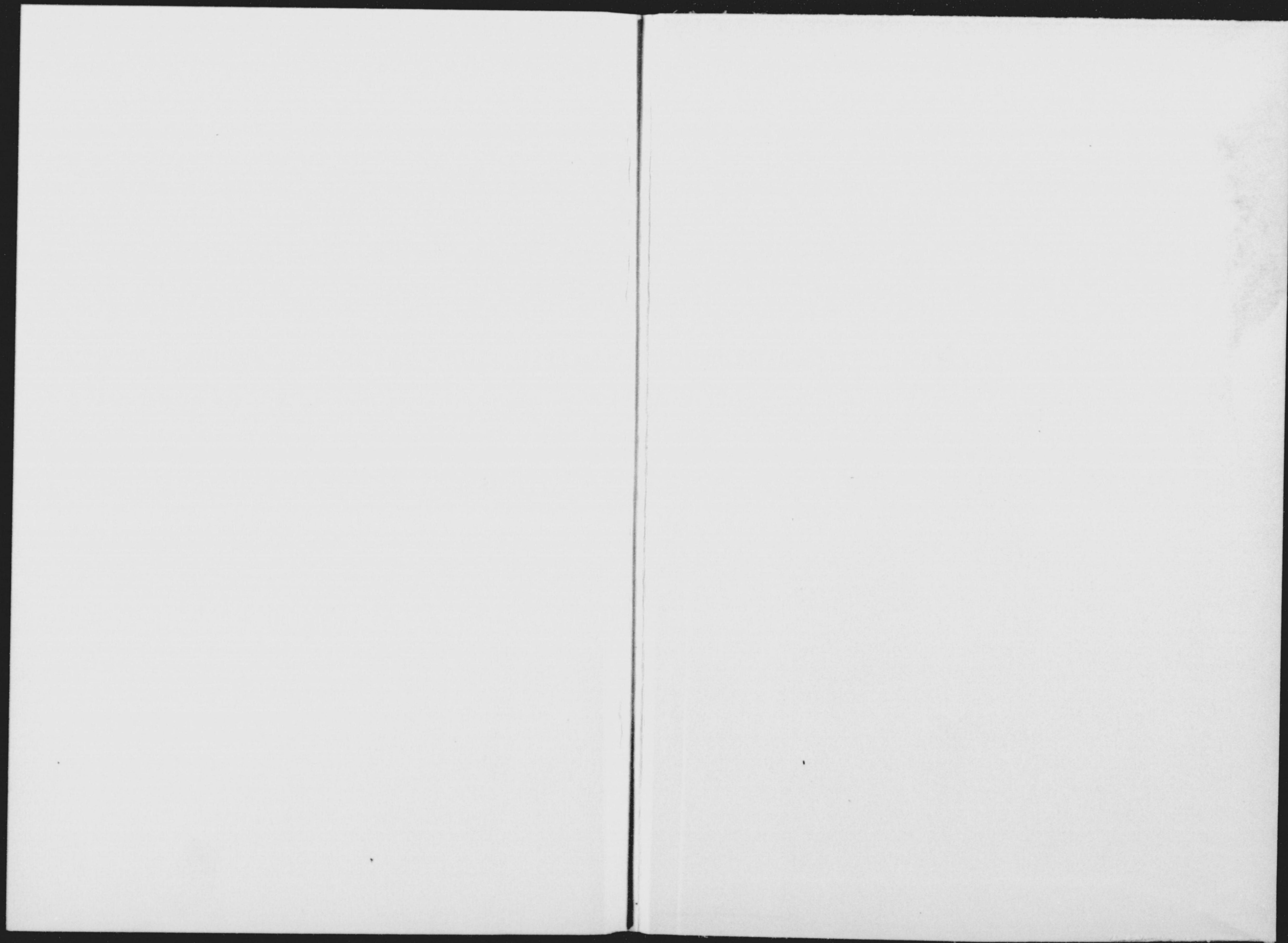
優秀児への躰

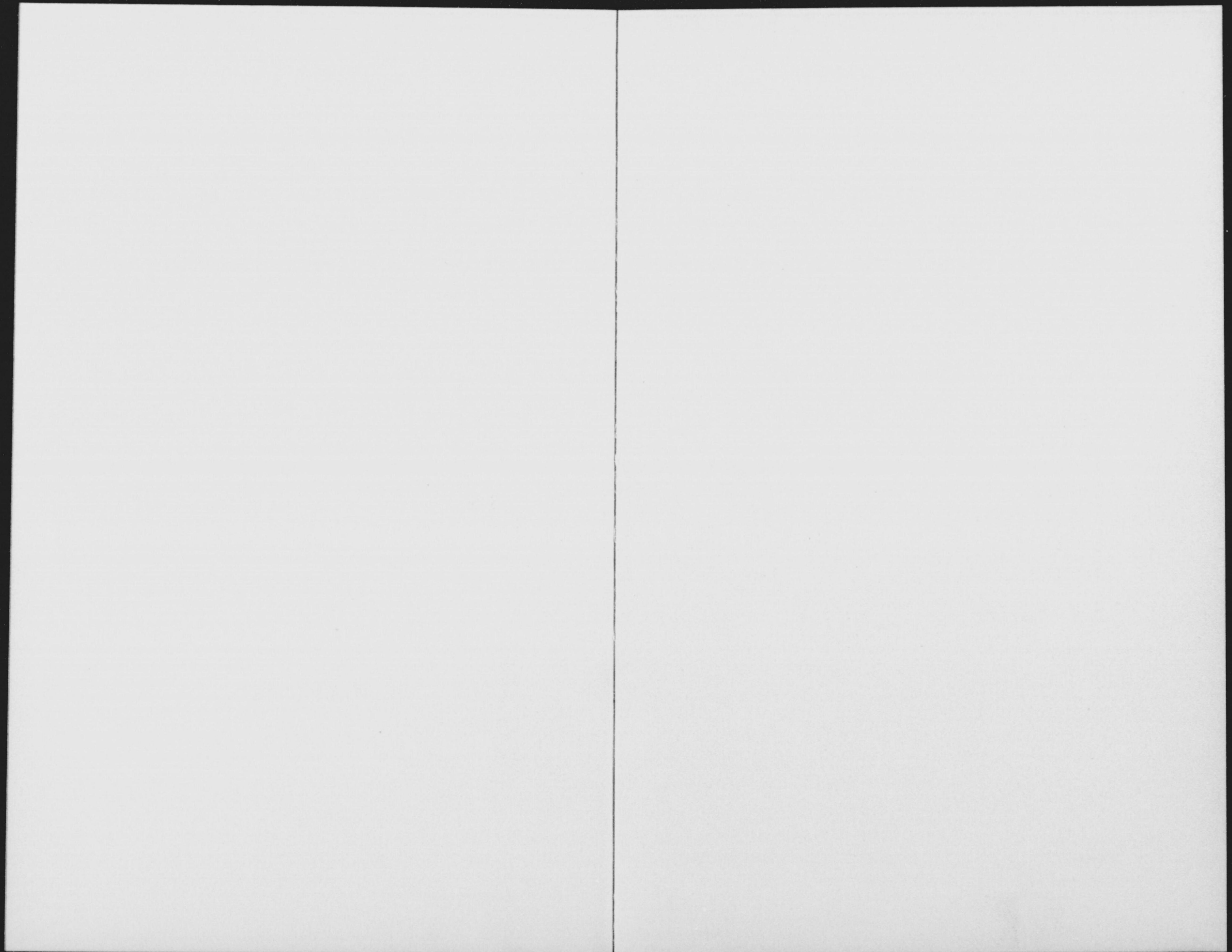
鈴木源輔・著

新紀元社

昭和17

AHP





12 35 2



優秀兒童の躰

—母のための教育學—



新紀元社



252.5
299

優秀のへ

鈴木源輔著



序

御國の子供を、よく育てるのには、どうしたらよいのでせうか。大東亞戦下の、少國民の鍊成は、如何にすべきでせうか。

子供は御國の寶であり、家の寶でありまして寶としての子供の教育は、まことに重大であります。子供が立派に育つと、育たないとは、國家の消長に關係し、家庭の盛衰に影響します。ですから子供が優秀兒として成育することを、念願してやまないであります。

お母様方や、家庭の人々の愛育によつて、家庭に於ける躰は施されるものです。愛育の仕方や、躰の方法には、いろいろな種類があります。殊に大東亞戦下の家庭教育は、今までの家庭教育とはちがふところがあるはずです。

優秀兒への教育は、學校と家庭とが、協力してこそ、その成果があげられるものであります。家庭に於ける生活は、一日の生活時間の半分以上を占めて居ります。ですから家庭教育の良否が、子供に及ぼす影響は、時間的に見ても大きなものです。お母様方や、家庭の人々が、正しい教育の考へ方をもつて、根強く躰けてこそ、子供は立派に育成されるのです。

本書は御國の寶としての子供を、家庭の寶としての子供を、優秀兒として育成するために母として、又家庭の指導者としての心構をのべ、子供の生活を説明し、優秀兒への躰の具體的な問題を、解説したものでありまして、なるべく多くの人達に、少國民鍊成の、新しい方向を考へて戴くために、平易に、具體的に表現しました。幸ひ本書が聊なりとも、新しい家庭教育の、参考になれば幸甚だと存じます。

昭和十七年五月

東金城下にて

著者しるす

目次

序文……………(一)

戦時街道を往く……………(一)

一 決戦下の家庭教育……………(三)

1 新しい家庭教育とは……………(三)

2 子供の人生観教育とは……………(七)

3 家庭自由主義とは……………(一三)

4 家庭教育の新體制……………(一五)

二 母なればこそ……………(三)

1 母への思慕……………(三)

2 母の勞苦……………(三五)

3 お母様菩薩……………(三六)

4 母の責務……………(三八)

三 無限の財 (三〇)

1 成育までの費用 (三〇)

2 一生の負債 (三一)

3 無限の財 (三三)

四 戦時街道を往く (三五)

1 進め一億火の玉だ (三五)

2 日本は世界の真中だ (四一)

3 日本的世界観とは (四三)

4 革命 命 兒 (四六)

赤子を育む國の母たち (四九)

一 國の母の誓 (五一)

1 母も兵隊 (五一)

2 國の母の誓 (五四)

二 赤子は國寶 (五六)

三 赤子を育む國の母たち (六一)

1 忠臣の誕生 (六一)

2 遺傳にみつめる (六五)

3 環境を省みて (六七)

4 國益優先の考へ (六九)

5 どんな子供に育てるか (七〇)

四 三つの愛 (七五)

1 可愛いがり方 (七五)

2 本能愛とは (七九)

3 選擇愛とは (八〇)

4 絶對愛とは (八三)

子供の生活を觀る (九〇)

一 遊びの生活 (九三)

4

二情意の動き

- 1 生活の種々相……………(九五)
- 2 遊びの生活……………(九五)
- 3 遊びは生活全體……………(九六)
- 4 遊びの特徴……………(九七)
- 5 よい遊びと悪い遊び……………(九九)
- 6 神との遊び……………(一〇三)
- 7 遊びと教育……………(一〇四)
- 8 遊ばせ方……………(一〇五)
- 9 自發的なもの……………(一〇六)
- 10 創造的なもの……………(一〇七)
- 11 遊び相手……………(一〇八)
- 12 興味生活……………(一一一)

- 1 情意生活……………(一二五)
- 2 情意生活の導き方……………(一二八)
- 3 総合的な生活……………(一三〇)

國民學校を觀る

- 4 主觀的な生活……………(一二三)
- 5 直情的傾向……………(一二四)
- 6 感情傳達の速さ……………(一二五)
- 7 言葉の訓練……………(一二六)

三模倣と創造……………(一二七)

- 1 模倣性と子供……………(一二七)
- 2 創造性と子供……………(一二八)

四活動性と子供……………(一二九)

- 1 活動性を見つめて……………(一三三)
- 2 明朗闊達な子供……………(一三五)
- 3 發展的生命……………(一三六)

五御國の子供……………(一三八)

- 1 子供の心理……………(一三八)
- 2 御國の子供……………(一三九)

國民學校を觀る……………(一四一)

一朝の學校……………(一三八)

- 1 登校の美しさ……………(一四三)
- 2 御影への拜禮……………(一四七)
- 3 玄關番……………(一四八)
- 4 職員の行……………(一五一)
- 5 貴女の子供ではない……………(一五三)
- 6 耐寒駢歩……………(一五五)
- 7 教室での朝禮……………(一五六)
- 8 講堂での行……………(一五九)
- 9 國旗掲揚式……………(一六六)
- 10 少年團訓練……………(一七〇)
- 11 生活訓練……………(一七三)
- 12 表現作業……………(一七八)

二晝の學校……………(一八一)

- 1 孝行のさせ方……………(一八一)
- 2 國民學校とは……………(一八五)

- 3 歴史を創る子供……………(一九〇)
- 4 鉢植ゑ……………(一九三)
- 5 一人一研究……………(一九五)
- 6 算数のすばらしい成績……………(一九八)
- 7 聴覺訓練……………(二〇三)
- 8 郷土の觀察……………(二〇五)
- 9 晝寢教育……………(二〇八)
- 10 炎天での集團訓練……………(二〇九)
- 11 末頼しい子供……………(二二二)
- 12 食事のさせ方……………(二三四)
- 13 火車が動くやうだ……………(二三五)
- 14 國語の成績……………(二三八)
- 15 武士的精神……………(三三一)

三夕べの學校……………(三三一)

- 1 生産學校……………(三三一)
- 2 夕べの感謝……………(三三三)

優秀兒への躰 (三五)

一 躰の方向 (三七)

- 1 大國民として (三七)
- 2 忠義な少國民に (三〇)
- 3 敬神崇祖のをしへ (三一)
- 4 大孝へのしつけ (三四)
- 5 質實剛健を目あてに (三八)
- 6 勤勞の習慣を (四〇)
- 7 意志の強い子供に (四四)

二 國民學校と優秀兒 (四六)

- 1 優秀兒の意味 (四六)
- 2 優秀兒の種類 (五〇)
- 3 優秀兒への教育 (五三)
- 4 母も教育者 (五七)

三 環境と躰 (五九)

1 物質的環境とは (五九)

- 2 精神的環境とは (六一)
- 3 文化的環境とは (六三)
- 4 動く環境とは (六五)
- 5 動かぬ環境とは (六六)

四 躰と家庭 (六六)

- 1 躰の計畫 (六六)
- 2 躰の空氣 (六九)

五 基本的な躰 (七三)

- 1 家風に依る躰 (七三)
- 2 家庭作業の躰 (七六)
- 3 言葉の躰 (七九)
- 4 禮法の躰 (八三)
- 5 勉強への躰 (八四)
- 6 身邊に對する躰 (八八)

六 躰の方法 (九〇)

- 1 垂範による躰 (九〇)

七 躰の極地……………(三〇三)

- 1 一時的な躰……………(三〇三)
- 2 永久的な躰……………(三〇三)
- 3 躰の順序……………(三〇四)
- 4 躰から自覚へ……………(三〇六)
- 5 大東亞の指導者として……………(三〇七)
- 6 信念に生きる……………(三〇八)

八 秀才兒の教育……………(三一〇)

- 1 全體的秀才兒……………(三一〇)
- 2 部分的秀才兒……………(三一〇)
- 3 秀才兒の性質……………(三一〇)

異常兒の指導法……………(三一九)

- 4 秀才兒教育の方法……………(三一四)

一 偏食兒の指導法……………(三二一)

- 1 偏食兒の原因……………(三二一)
- 2 偏食の矯正法……………(三二二)

二 盜癖兒の指導法……………(三二三)

- 1 盜癖兒の原因……………(三三四)
- 2 盜癖の矯正法……………(三三四)

三 内氣な子供の指導法……………(三三六)

- 1 内氣になる原因……………(三三六)
- 2 内氣の矯正法……………(三三七)

四 嘘言をつく子供の指導法……………(三三九)

- 1 嘘言の原因……………(三三九)
- 2 嘘言の矯正法……………(三三〇)

五 怠ける子供の指導法……………(三三三)

- 1 怠けの原因……………(三三三)

六 慌てる子供の指導法……………(三三五)

 1 慌てるものとなる原因……………(三三五)

 2 慌てる子供の矯正法……………(三三六)

七 注意の散る子供の指導法……………(三三八)

 1 注意の散る原因……………(三三八)

 2 注意散漫児の矯正法……………(三四〇)

家庭教育成功の實例……………(三四三)

 一 家庭の偉力……………(三四五)

 二 天才教育に成功した母……………(三四六)

 三 健實な家風を作った父……………(三四七)

 四 強情な子供を素直にした母……………(三四九)

 五 大國民態度を養成した母……………(三五一)

 六 子供を動かした母の誠意……………(三五三)

戦時街道を往く

一 決戦下の家庭新教育

1 新しい家庭教育とは

決戦體制下の家庭教育をどういふやうに改革したらよいでせうか。この問題は多くの家庭で研究してゐる大きな問題であります。皆さんは決戦體制下に於て、家庭をどう改革されましたか。家庭教育に對してどんな理想をお持ちですか。又どんな案を御考へになりましたか。

米の配給とか、味噌醤油の配給とか、衣類や、砂糖や、鹽の切符制とかで、消費節約をなされ、貯蓄の奨励によつてむだな費用を省いて、貯蓄をされ、生産擴充に對して、勤勞精神を鼓吹してゐられるのは、誠に結構なことであります。

しかし家庭教育に對して、筋を立てた案が出来上りましたか。戦時體制下に於てはづかし

戦時街道を往く



くない名案が出来上りましたか。家庭は教育の發祥地であり、教育の温床であります。苗床の管理が悪いと、よい苗は出来ません。この苗を學校へ移植しても、すくすくとは伸びません。家庭教育のよしあしは、その子供の一生を支配します。

一人の良母は、百人の教師に値す。

といはれてをります。これは母だけではありません。家族全體が、子供に及ぼす影響は非常に大きいものであります。昔の人が

鳴く聲のよきも悪しきも親鳥の

教へによるぞ藪の鶯

といつてをります。家庭教育の大切なことはこれによつてはつきりわかります。又世間に傳つてゐる俗の言葉に

嫁を貰ふなら親見て貰へ

といふのがありますが、これも家庭教育の重大性を説いたものであります。

家庭教育の重大なことは今更言ふまでもないことでありますが、從來のやうな家庭教育では教育の意味が薄くなります。大東亞戦争下の家庭教育を考へるのが、新しい家庭教育とい

ふことになります。東條首相が「第一線も銃後もない。國をあげての戦場だ。」といつてゐますが、國土をあげて、國民をあげて、國の資材をあげて、國力のすべてをあげての戦争です。若きも老いたるも、力の限りを盡しての戦争であります。だから

家庭も戦場

といふことになります。この精神をもつて、子弟を教育して立派な日本國民に仕上げることに、家庭の務めです。町内常會や、部落常會では、公益優先とか、闇取引をなくしませうなどと、一かどのかつことをいつてゐながら、家庭へもどれば、家庭の利益独占のことを話合ひ、闇取引の相談をするやうでは何にもなりません。新しい家庭教育では

盡忠報國

の信念を養ふといふことが、一番大切なこととなります。この立場から、すべてのことを割出して考へさせるのです。朝早く起きることも盡忠報國であり、働きぬくことも盡忠報國であり、節約も盡忠報國であるやうに、子供の行爲行動を盡忠報國の鏡に照して考へさせることが、此の上もなく肝要です。禮儀正しい子供にするとか、上品な子供に育て上げるとか、落ち着いた子供に躰けるとかといふ前に、この大本を忘れた家庭教育は、家庭教育とし

ての根幹を離れたものになります。戦時下の家庭教育は、この偉大な

忠 誠

の精神によつて、立て直すことが肝要であります。陛下の御爲に、すべての仕事をするのであるといふ精神を徹底させることが肝要であります。

一にも 天皇に對して忠誠を致す

二にも 天皇に對して忠誠を致す

三にも 天皇に對して忠誠を致す

四にも 天皇に對して忠誠を致す

といふやうに、食事から、仕事から、就寝まで、一切の生活を 天皇に歸一し奉る家庭教育が、今の家庭教育の大きな目標であります。日本全體の家庭がこの精神で進むべきだと思ひます。大體この精神で教育されてゐるとは思ひますが、その徹底さが如何なものでせうか。皆さんの家庭は忠に徹した家庭になつてをりますか。軍人さんの家庭では、このことがよく徹してをられるやうですが、一般の家庭では如何なものでせうか。

2 子供の人生觀教育とは

子供は死ぬことを非常にいやがります。そして死を怖れ、死者に對して絶大な同情をよせるものであります。その上大きな空想を描いて、大臣大將を夢み、一世の大實業家を夢み、一代の大學者にあこがれ、永世に生きんことを望んでやまぬものであります。

死を怖れ、生を願ふのは子供だけではありません。大人でもさうです。少し病氣にでもならうものなら、醫者や藥で大さわぎであります。死ぬことを怖れるのは人間の本能でありますから詮方ありませんが、ただ長生を保つたからよいといふわけではありません。醉生夢死の徒であるならば厄介ものであります。といつて死ぬことを望むのも變な話であります。犬死であつては何にもなりません。死に場所を擇ぶことが大切であります。病氣になつたからといつて捨てて置く必要はありません。病氣を直すといふことは死にたくないから病氣を直すではありません。健康な體になつて 陛下に忠義をつくしたいから病氣を直すのです。

子供も大人も死を怖れるが、死を怖れるやうでは、まだまだ修養がたりないので、
生死を超越する。

といふことが肝要であります。生死を超越して、仕事に勵むといふことをねらはなければなりません。生死を超越して、天皇にお仕へ申すといふことが大切であります。生死を超越する行き方に三つあります。

- 一は思索反省から
- 二は修養行から
- 三は信念から

であります。一の場合から申し上げます。生あるものはかならず死ぬとは不思議であると考へるのです。

しかし死はまぬかれない。どう考へても死ぬのであるから、そこで煩悶し、苦悶し、人生の流轉無常を感じるのです。人生の矛盾を悲しむのです。いくら矛盾を感じても死ぬ事實はどうにもなりません。いよいよ人生の儚さに打たれ、苦悶に苦悶した揚句、死んで生きることを考へ出すものであります。死んで生きる、その生き方は、キリスト的な考へ方や、佛教的な考へ方もありますが、皇國の道に於ける生き方は、かうなりません。「日本國民は神の力で生れたものでありますから、生命は神のものであつて、神の意思に従つて働き、神に感

謝しながら働かせて貰ふことが、國民の務めである。全力をつくして職域に働くことによつて、神人が合一して、神と共に生きることが出来る。たとへ肉體は死んでも、神に歸するものであるから、神と共に永世に生きる」と考へるのであります。かくして生死を超越して、皇國の爲に働くといふ信念をもつやうになるのです。

この場合は修養行によると申しましたが、一例を申すならば、軍人が毎日教練をやり、演習を行ひ、戦線を突破することによつて、生死を超越して、皇國の爲に死を怖れざらざるやうなのがこれであります。

三は信念によるものであります。信念は思索や反省によつて信念を得る場合と、行によつて信念を得る場合と、教へによつて自然に信念を得る場合があります。今ここで説明しようとするのは教へによつて信念を得させる場合のことです。教へによつて信念を得させるのは、子供に適用すべきものであります。勿論教へといつても、教へることと、それに伴ふ行とがあるものであることを忘れてはなりません。

少年航空兵は、一年たつと死を怖れざるやうになり、二年たつと、死は怖れないが與へられた仕事を完行しなければ死なないといふ覺悟を持つやうになるといふことであります。生

死を超越して働いてくれた少年航空兵の戦果は、ハワイ海戦に、マレー沖海戦に、比島海戦に、その他各戦線に赫々たる武勳をのこしてをります。

生死を超越する者は幸福なり。

であります。皆さんは生死を超越してをりますか。皆さん方の子供達に生死を超越する教育を施して居られますか。生死を超越してゐれば煩悶はありません。生死を超越してゐれば肚が据わります。勇猛心が出ます。物事にくよくよいたしません。いつも心は平靜で、澄んだ青空のやうです。

どうして子供に生死を超越させるか。

といふことを深く考へて見て下さい。その方法は色々あります。寝物語に忠勇の士の話を聞かせ、死して忠義をたてたものの話を聞かせたり、靖國神社に参拜させたり、忠に殉じた人々の寫眞を示したり、忠勇美談を読ませたり、衆生濟度の大願目をもつて働いた志士や篤志家の傳記を読ませたり、忠魂碑や、忠靈塔の禮拜や、戦歿將士の墓参りをさせることによつて、次第次第に死を超越する信念を養ふことが出来るのであります。

死を超越するとは死ぬことを進めることではない。

死を超越するといふことは、死ぬことを勧めることではありません。子供が仕事にかかつたら全力を集中して生死を超越して、一心不乱にその仕事を遂行させようとする尊い姿であります。子供が大きくなつて、仕事をするときに生死を超越した悟りをもつて、働いてくれるならば、それはかならずや大なる仕事をしてくれると思ひます。一世を風靡し、一世を救ふ大事業をなすものであります。家庭の母が、家庭の妻が、家庭の空氣が、かかる雰囲気になつてゐれば、理窟抜きで、自然にその信念が養はれるものであります。祖父が日清戦争で活躍し、親が日露戦争で大功を立て、子が大東亞戦争で偉勳を立てるといふやうに、軍人の家庭には、生死を超越して皇國につくす信念が、家庭の空氣の中に、自然に養成されるのを觀ても、そのことがよくわかります。楠公一門の家庭教育を見てもこのことは明瞭であり、又五代の苦心で有名な經世家、佐藤信淵の家學を見てもこのことがよくわかります。世の父よ、世の母よ、世の妻よ、世の夫よ、三つ子の魂百までもであります。大東亞戦争下の今日勝たねばならぬこの大決戦下に、どこまで續くかわからぬこの聖戦に、どこまで擴がるかわからぬこの義戦に、國をあげて家庭全體が、しつかりした子供の人生觀を育んでやつて下さる。

3 家庭自由主義とは

水の中にゐては水のありがたさはわかるものではありません。空気の中に生活してゐるものは空気の存在をも意識しません。潜水艦の中で、海底の潜航を続けてから浮び上り、新鮮な空気を入れた時の空気の味は特別なものだといふことであります。日本人は長い間、自由主義の空気を呼吸して來ました。それは徳川末期の開港以來明治大正昭和の永きに渡つて、約八十年間外國の文化を吸収すると共に自由主義の主張を知らず識らずの中に吸込みました。そして日本人の心の中に、生活の中に、この思想が沁みこんで、自由主義の思想が心の中にあることさへ意識しないやうになりました。

日本には無数の自由主義の爆弾が落下したのです。都會といふ都會には、この爆弾が爆發して相當の被害をあたへました。御覽なさい。日本人に個人主義が横行し、自由主義が横行してゐることを。——そして昔あつた武士氣質とか、百姓氣質とか、町人氣質とかはいつの間にか消え去つて、他人を誤魔化しても、自分だけ利益を得れば満足し、他人を蹴飛ばしても、自己の榮達を考へるといふ状態になつたのです。情けないと思ひます。しかしまだ大丈夫で

す。日本人の心の奥底には、大和魂がちやんと爆撃されな残つてゐますから——滿洲事變を契機として、この大和魂が盛上つて來たことは誠に喜ばしい限りであります。

皆さんの家庭には自由主義はありませんか。個人主義はありませんか。お父さんは大丈夫ですか。お母さんはしつかりしてゐますか。夫は大丈夫ですか。妻の精神はしつかりしてゐますか。子供達もたしかですか。お父さんが自分勝手我儘一杯なことをして、家庭を泣かすやうなことはありませんか。お母さんが贅澤三昧に耽り、ヒステリックなことをやつて、夫や子供をこまらせるやうなことはありませんか。妻が我儘をいたしませんか。子供が我儘をいひませんか。親を困らせ、兄弟を困らせるやうなことはありませんか。今家庭に於ける自由主義個人主義の例を左に掲げて御參考に供したいと存じます。

- ▲自分だけがよい着物を着たいと考へること。
- ▲自分だけがよいものを食べたいと考へること。
- ▲自分が横着をして、他の家族を働かせようとする考へ。
- ▲我儘な子供。
- ▲すねる子供。

▲横着な子供。

▲家庭の愛を独占しようとする子供。

▲虚榮心の強い子供。

等はこれに屬するものであります。個人主義の芽は、自分がよくなればよい、自分のために他を犠牲にする思想であつて、個人の自由を主張する悪い考への芽であります。

悪の芽は二葉でつまめ

といふことが肝要であります。家庭は一切の生活の苗床であります。よい芽も、悪い芽も出ます。個人主義自由主義の芽をしつかり摘んで、よい芽を出して下さい。しかしお父さんや、お母さんや、夫や妻が、個人主義や自由主義に染つてゐては、子供の悪いことがわかりませんから、先づ先づ親が個人主義、自由主義から脱け出ることが大切であります。でない

と子供の思想を直すことが出来ないのであります。

子供は家庭の鏡なり

で、親の行爲は自然に、子供に移つて行くものであります。

明治天皇の御製に

たらちねの庭の教はせまけれど

廣き世に立つ基とはなれ

と仰せられてありますが、家庭教育が大切であります。親が個人主義であつて、子供をよくしようとするのは間違ひであります。個人主義の我利主義のための親の財産は、子や孫の代になれば、個人の慾望を満足するために使ふことになるものであります。親が子供に餘す財産の中で一番大切なものは、物質の財産よりも徳の財産です。物質的財産よりは、精神的財産が大切です。西郷南洲が、幾たびか辛酸を得て志始めて堅し、丈夫は玉碎するも軛全を愧づ、我が家の遺法人知るや否や、子孫のために美田を買はず、と詠んでをりますやうに、しつかりした精神、しつかりした精神を餘してやれば、それによつて財を勝ち得るからであります。

4 家庭教育の新體制

決戦下の家庭教育で考へなければならぬことはたくさんありますが、第一はこの家庭に於ても忠義の念を養ふといふことであります。忠義に關する話や、忠義に關する書籍雑誌や繪畫等を與へて知らず識らずの中に、忠義の觀念を鍊つて下さい。昔のねんねこ歌の

ねんねんころりよおころりよ
 坊やはよい子だねんねしな
 坊やお守りはどこへ行つた
 あの山越えて里へ行つた
 里のみやげになにもらつた
 でんでんだいこにしやうのふえ
 といふのを改めて、今の世柄では次のやうに
 ねんねんころりよおころりよ
 坊やはよい子だねんねしな
 坊やお守りはどこへ行つた
 あの海越えて南洋へ行つた
 南洋のみやげに何もらつた
 ゴムのおまりに錫人形
 といふやうにしなければなりません。ねてもさめても、機會あるごとに皇國發展の觀念を

養つて戴くことが肝要です。

第二に考へて戴くことは、敬神崇祖といふことであります。昔の人は一切の生活を神様に結びつけました。喜びも悲しみも、神に結びつけたのであります。子供が生まれたといつては神に奉告し、子供が七歳になつたといつては神に祈り、元服の時は神に奉告する。結婚の時も神前に奉告するといふやうであつたのです。又農民は種蒔から、田植から收穫に至るまで神に豊年ならむことをお願いいたし、豊穰の年は豊年祭を行ひ、如何なる祭に於ても、海の幸、山の幸を神前に供へたのであります。なほ病人があれば神に平癒を祈願し、俳句會、和歌の會を催しては神前に額をかけ、将棋の額までを、角力の額までを神前にかかけました。力が石が神社の境内にあり、相撲場や矢場や競馬場が神社の境内にあるのは神を中心として生活をした證據であります。

各家庭には、神棚を設けて天照大神をお祭りし、佛壇を設けて祖先の靈を祭つてあります。敬神崇祖は日本の美風です。日本の事を神州といひ、國民を神州男兒といひ、神州女子といつてをります。神の心を心とし、神の行ひを行ひとし、神人合心の氣分で生活してゐたのが、日本人の生活であつたのです。神の前ではづかしくない生活をするのが、日本人の生活であ

つたのです。それが歐米の自由主義にそまつて人情が輕薄となつて、いつかは神や佛と遠ざかる生活をするやうになつたのが残念であります。再び日本人の生活を神への生活に立返らせて下さい。家族全體で朝晩の禮拜をなさつて下さい。私の學校では、各教室に神棚を設けて、これに禮拜をさせ、祝詞を奏上させてをります。神に對する信念や、國に對する信念は小さい時に養ふことが肝要です。國をあげて毎朝宮城を遙拜し、神佛を禮拜させたいと思ひます。今まで多數の子供を教へて見るのに

信仰心の強い家庭の子供は思想が健全だ

といふことがいへます。浮薄な家庭の子供は、その點がまづいやうであります。祖先崇拜の精神のない家庭の子供には個人主義的自由主義的な傾向が出るやうであります。これは仕へまつる

といふ氣持がないから、自由勝手なことをすることになるのです。神に仕へ、佛に仕へ、祖先に仕へまつる心は謙虛な心で、自然に親に仕へ、教師に仕へ、長上に仕へる氣持となるものであります。

第三は經濟新體制による教育であります。經濟に對する定義は色々ありますが、日本で

は昔から經濟とは、經國濟民といふことだといつてゐます。國を富まし、民を救ふのが、經濟だと考へてゐたのです。國民生活の安定が經濟だと考へてゐたのです。今のやうに我利我利主義が經濟だとは考へてをりませんでした。それがいつの間にか自由主義經濟がいつて來て、日本の經濟組織が出來上つたのであります。今の日本の經濟は計畫經濟となりました。日本が大東亞戰爭に勝つためには、計畫經濟の下に働かねばなりません。殊に戰費を捻出するためには、貯蓄の奨励とか、消費節約、生産擴充といふことが、各家庭で必要なことになつて來ました。子供に質素儉約の美風をしつけねばならなくなりました。子供に對しては

▲御飯をのこさずに食べさせること。

▲御吸物(味噌汁)をのこさないやうにすること。

▲御醬油等をのこしたら、お湯にまぜて始末させる。

▲香物とか副食物等をのこさずに食べさせること。

▲混食、代用食を不平をいはないで食べさせること。

▲無駄費ひをさせないこと。

▲新調の着物はなるべく差控へること。
 ▲お古の着物や、つぎのあたつてゐる着物をきること。
 ▲學習用具も出来るだけ質素にさせること。
 ▲代用品を使はせること。
 ▲貯金を奨励すること。
 等であります。親達が模範を示せば、子供は自然にさうなりますが、親が、母が新しい着物をほしがつたり、買溜めをしたりしては、子供に此の思想を徹底させることはむづかしくなります。

第四は科學的態度を養ふといふことであります。今の戦争は科學戰であります。大和魂をもつて事にあたると共に、科學の力が絶対に必要であります。日本の家庭はどつちかといふと非科學的な場面が多いのです。これを科學的に導くことが大切であります。これからの子供には家庭の小破修繕位は自分でやらせなければなりません。時計の故障の簡單なもの位は、家庭で直させなければなりません。どの子供にも自轉車の操縦位は出来るやうにさせなければなりません。女子供と雖も、これ位のことにはやらせて貰ひたいと思ひます。出来れば、自

動車の運轉位はやらせたいと存じます。その他科學の家庭化を考へなければなりません。要するに學童が科學に關心をもつて、自然物に對して

疑問を持ち

驚異を感じ

科學する心（調べる心、觀察する心、工夫する心、創造する心）
 をもつといふことが大切なねらひどころになります。

第五は勤勞新體制の精神を採入れるといふことが大切であります。産業戰士は數百萬あつても足りない現状であります。女中の數も減りました。有閑婦女子は徵用令で働くことになりました。今の日本は一人のものが、五人前十人前の働きをしなければならぬ時勢になりました。家庭に於て働くことを奨励し、勤勞の苦しさや、忍耐力の必要なこと、そして勤勞の喜びを體得させて置くのが必要となつて來ました。家庭では一定の仕事の子供に課して繼續的な勤勞をやらせて下さい。しかし一日や二日の勤勞なら誰にでも出来ます。永く續けさせることを考へて下さい。

二 母なればこそ

1 母への思慕

母より生れて母の心に歸る人生の魂ほど不思議なものはありません。母の背中で聞いた子守歌、寝物語に聞いた祖先の手柄、母につれられての旅寝のゆかしさ、母と共に歩きし祭の夜のたのしさ——母への思慕は人生共通のものであります。いくつになつても母はなつかしい魂の故郷であります。死んだ母のことを懐ふとき、たまらなくなつかしさがこみあげて來ます。加茂眞淵が

なくなくも別れし時を別れにて

別るる親のなきぞ悲しき

と歌つてをります。親との死別はつらいが、今となつては別るる親がないのが悲しいとい

ふ意味であります。

お母様方！ 子供からとれば母親は世の中で一番なつかしいものであります。どうぞ身體を丈夫にして永く生きて、子供の面倒を見て下さい。行基菩薩が

ほろほろとなく山鳥の聲きけば

父かと思ふ母かと思ふ

といつてゐられます。世の母は、子供からとればなつかしいものの限りです。母を離れての生活は人の子として、誠につらひもの一つであります。平康頼が鬼界ヶ島に流されたときにつけた歌に

薩摩湯沖の小島にわれありと

おやには告げよ八重のしほ風

と歌つてゐるやうに親は、殊に母は懐しいものであります。この點から見て、母は世界中一番の幸福ものだといふことが出來ます。

満洲事變や支那事變から、今回の大東亞戦争に於て、幾百萬の勇士は母の懷を離れて戦線に向ひ、母の教へを守つて——母に勵まされて、奮戦したのです。日本の母がしつかりして

ゐることが兵隊の強いことにもなるのです。自分の子に向つて
家名を恥かしめないやうに働きなさい。

とか

陛下のために一命を捨てて働きなさい。

といふことが、如何に皇軍將士の心を勵したことでありませうか。奮戦に奮戦して、いざ
戦死するときは

天皇陛下萬歳——と

お母さん左様なら

といはれるさうであります。ハワイ海戦後これに参加した海の荒鷲の將士の座談會があり
ました。その記事が新聞に出てゐたのを讀んで見ると、數名の人が申合せたやうに、いざ
これが最期だと思つた瞬間、母の事が思はれ、心の中で母に別れをつげたいといふことでした。
世のお母様方、あなた方は幸福者です。皇軍將士の思慕の的です。よく立派な軍人を育てあ
げて下さいました。厚く御禮申上げます。

しかし御母様方安心なすつては駄目です。満足なすつては駄目です。皆さんの心を磨きに

磨いて、いよいよ母たるの本領を發揮して下さい。今の時代は全國のお母様方が

補正行のお母さまのやうに、

なつていたどかねばならない時代になつたことを深く考へて下さい。

殊にうら若いお母様方！ 大東亞戦争はいつまで續くかわかりません。國民學校にゐる少
國民に立派な家庭教育を施して下さい。

2 母の勞苦

人の寢静つたときに、子供に添乳をし、襦袢をとり換へ、寒風の吹きまく中に洗濯をし、
子供が病氣にでもならうものなら寝る目もねないで一生懸命看護をする状態であります。世
の中に犠牲といふ言葉があり、奉仕といふ言葉がありますが、母親位犠牲奉仕の精神の強い
ものは他にはないと思ひます。母の子への奉仕は人生奉仕の中で最大なものでありませう。
しかし母はわが子の可愛さに、一切の勞苦を忘れて、子供の生育に全力をそそいでゐる有
様であります。この母の愛が、この純情が、子供に移つて、子供は自然に親を慕ひ、親にな
づみ、親に感謝することになるのです。母が子供に一番よく慕はれるのは、母が誰よりも一

番よく子供につくしたからであります。子供は正直です。純です。一番愛するものを慕ふのは當然であります。子供は義理や人情で母を慕ふのではありません。母の眞實を慕ふのです。

たらちねの親のみ思ふみどり子の

心や人の眞なるらむ

であります。子供は母に對しては遠慮がありません。表裏がありません。偽りがありません。しかるに大きくなつてから母に偽言を吐くやうになるのは、種々なる事情もありませうが、その一部分は母の教育の仕方が悪いからです。世の母よ、子供への眞實の愛がやがて酬いられるやうな教育をして下さい。

3 お母様菩薩

世のお母様は、観音菩薩のやうな氣がしてなりません。観音様は大慈大悲によつて衆生を救ひ、お母様方は大愛によつて子供を育てるのですから似通つてゐるところがあります。観音様の大慈悲によつて衆生が救はれるやうに、お母様方の愛によつて子供が救はれるのであります。観音様が衆生に信仰されるやうに、お母様方は子供に慕はれるのであります。蜀山

人の娘が

阿伽桶あかかきの水に寫れる我影は

世になき母のかたみとぞ見る

と詠んでをりますのを見てもこれがわかります。又渡邊華山が牢獄につながれたとき、親の心中を察して

麻なはにかゝる身よりも子を思ふ

親の心をとくよしもがな

と歌ひ、吉田松陰が小塚原の刑場の露と消えるとき、親の身を案じて

親思ふ心にまさる親心

今日のおとづれ何ときくらむ

と親の身を心配してゐるのを見ても、子供の魂を握つてゐるものは母親であります。又重厚が

初夢を見るものならば親の顔

とよんでゐるのを見ても、親は殊に母親は、子供からとれば、母様菩薩です。母様観音で

す。母様菩薩が火の中に飛びこめば子供も飛びこみます。水の中に入れば、子供も水の中にはいります。母が死なうといへば子供も死ぬ氣になります。母の力は偉大であります。世のお母様方！ 子供は白紙です。純情です。お母様方のいふ通りになります。お母様方の教化力は實にすばらしいものです。お母様方の心はただちに子供に移ります。お母様が、しつかりした心、美しい心を持つておれば、その心がただちに子供に反映します。世のお母様方よ！ 立派な子供に育てあげようとするならば、自分の子供を學校の教師に頼む前に、お母様方の心を反省して見て下さい。お母様方の心を正しくしてから、教師に手渡して下さい。お母様方の心がひねくれておれば、どんな偉い教師につけても、その子は立派に育つものではありませんから。その點御反省を願ひます。

4 母の責務

お母様方が、子供に慕はれるといふは、母が犠牲的な愛をもつて、子供を愛育するからであるといふことは、前に述べましたが、いま一つの理由は、生理的に母を離れて子供は生育することが出来ないから本能的にも母を慕ふといふことがいへるのであります。この點から

考へると、母は子供を健全に成育させる責務があります。日本の人口はこの儘で行くと昭和八十年になると減少する傾向を示すさうです。出生率はよいのでありますが、幼児の死亡率がいちじるしく多いのです。骨を折つて産んだ子供が成人しないで死亡するといふことは、情けないことです。お母様方は子供を健全に育て上げるといふことが大きな責務の一つになります。

それと共に、自分の子供だけは、皇國民として恥しくない立派な國民に育て上げなければなりません。自分の子供の中から思想的な違反者を出したり、不忠な臣を出すやうでは、國家に對して申譯がありません。

どんな悪い子供でも、眞實な母の愛には改悛するものであります。共産黨で牢獄に入れられたものも母が面會して、諄々と説くことによつて翻然として轉向した例はたくさんあります。子供を立派に育て上げるのは、世の母の一大責務であることを忘れてはなりません。それを無責任な母は、子女の教育を他人にまかせ、家庭教師にまかせ、學校の教師にまかせ、甚だしきに至つては女中にまかせるやうな始末であります。これではよい子供は出来ません。子供の教育は何はさておき母が一番の責任者であります。

自ら責任を回避しては、決してよい子供を育成することはできません。これからの母は教育を研究し、教育學を研究し、教育方法を研究して、一かどの教育の識見を持つてゐなければなりません。殊に家庭教育に對してはしつかりした考へを持つべきであります。

三 無限の寶

1 成育までの費用

子供の可愛さにつりこまれて、親の小遣を節約してまでも、子供に玩具を買つて與へる。土産物を買つて來る。着物や洋服を買つてやるといふ始末、それに日常の食料費や學用品代を入れると、安く見積つても、國民學校の初等科六年を修了するまでに千五百圓はかかるといふことです。それから中等學校に入れて五ヶ年間に食費衣料費を入れて約二千五百圓かかるといはれます。さうすると中流の家庭に於て、中等學校を卒業させるまでに四千圓かかるこ

とになります。若し大學を卒業するまでのことを考へると一萬圓以上の金を子供につきこむことになります。

今四人の子供を中等學校を卒業させるとしますと、一人四千圓でありますから、一萬六千圓の學費をかけることになります。随分多額なものです。もしこの金を銀行に預けて置いて三分三厘の利子をとると、年額五百二十八圓になります。子供のないものが、子供のある思ひをしてためて、銀行に預けて置くと、老後に年々五百二十八圓の利子がいればかりでなしに、元金一萬六千圓を得るわけになります。

世のお母様方！ 家の財産をのこさんがために朝早くから晩遅くまで働くことは結構ですが、そのために子供を犠牲にしないで下さい。目の前の金を五百圓や千圓ためることよりは、子供を立派に育て上げる方が利益が大きいのです。一萬六千圓の資本をつぎこむ子供のことを考へないで、子供をはふり放しにしておいて、その子が外れものになつたらどうしますか。千圓働いても一萬六千圓する方が、損害が大きいことを知らねばなりません。

2 一生の負債

子供がはづれてしまへば、一萬六千圓は赤字になつてしまひます。中流の家庭で一萬六千圓が負債になることはつらひことです。そのために一家が破産しないとも限りません。一家が破産するばかりでなしに、子供が外れ者になると、それは一生の不作です。不良な子のために親は一生泣く羽目になります。不孝な子のために一生うだつがあらぬばかりか、世間の人に對して顔向けが出来ないことになりす。

世のお母様方、目前の小利に吸々として、世にかけがへのない子寶の教育を忘れないで下さい。皆さんの一番大切な財産は何をおいても腹を痛めて産んだ、あなた方の子供です。子供が大きくなつて赤字にならないやうに、責任ある教育を施して下さい。

子供の教育を考へると共に、子供の身體に注意して下さい。頭がよくとも、性質がよくとも、身體が悪ければ、これも一生の不作です。早死でもしたならば、これまた何とも同情のしようがありません。折角育てあげた子供に先立たれて、老後を守るものもないやうでは、養老院の厄介になるか、親戚知る邊をたよる外ありません。粒々辛苦して育てた子供に先き立たれる人は、世の不幸者の中の不幸者だと思ひます。頑健な身體を持つやうに、子供の體育には十分注意して下さい。子供の身體は親の不注意から、親みづからが悪くする場合が相

當多いやうです。子供を馬鹿可愛がりをして、間食させて胃腸障害をおこさせ、厚着をさせて皮膚をよわくし、活動芝居を多く見せることによつて神経質たらしめ、外遊びをおそれて家庭の温室に入れて、運動量を減じさせ、これが原因して短命となる場合が多いのです。これから考へると、母の責任は誠に大きいものです。どうか子供を立派に育てあげるために、十分の關心と注意を拂つて戴きたいと思ひます。

3 無限の財

もしも子供が立派に育ちあがつて成功したならば、世の中にこれ位の利益はないでせう。精神的には親が安心し、物質的には親を養ひ、何の不自由なく餘生を送ることが出来るからであります。

「あそこの息子はあつた。あの親達は若い時分には随分苦勞したが、今はたいしたものだ持つべきは子に若くはなしだ。」などといふ世間話をよく聞くことがあります。親にとつては子供の成功程嬉しいものはありません。お母様方、何としても子供を立派に育てあげて下さい。ナポレオンが

子の將來の運命は常にその母の所作なり、
 といつてをります。子供の運命は誰の責任でもない、お母さんの責任だといふことです。
 そんなにお母さんが大責任をかけられては大變であります。お母さんの導きやうで、子供
 は悪にも善にもなるものです。

母の心は子女の教室なり

ともいはれてゐます。お母様の心の持ちやうで、子供はよくも悪くもなるものです。立派
 な心を持つてゐる子供の母をしらべて見るとその母も大抵立派です。しかるに世の母の中に
 は、自分の子供を悪くいつて、母だけが立派な行ひをしてゐるやうなことを言ひふらすもの
 があります。心得違ひも甚だしいものです。お母様がよければ子供もよくなるものです。
 母の心の底からのいましめは、子供に對する特效的な良藥となるものであります。アレキサ
 ンダー大王でさへ、あの英雄でさへ、母の力の偉大なことに感じて

母の涙の滴りは、子の不平を洗滌す

といつてをります。

どうか子供を立派に育てあげて、子供が無限の財となつて、親を精神的物質的に尊ぶやう

に教育して下さい。或る人は「子供を育てるのは投機的事業のやうだ。あたるかはづれるか
 わからない。」といつてをりますが、投機的事業ではありません。母の誠意によつて、子供
 はたしかによく育つものであります。お母さんの誠心と努力とは子供によい影響を及ぼすも
 のであります。どうせ親が苦心して育てる子供ですから、一生の負債にならないやうに、無
 限の財としての子供を育てて下さい。それにはお母様が本腰になつて、眞剣にかからなけれ
 ばなりません。

四 戦時街道を往く

1 進め一億火の王だ

大東亞戦争の眞只中です。帝國の運命を賭しての總力戦です。第一線の將士は、滿蒙の國
 境から、北支、中支、南支の戦線へ、はては佛印、ビルマ、マレー、フィリッピン・蘭印まで、

太平洋ではハワイで米國太平洋艦隊を撃滅し、ミッドウエー、ウエークを占領し、マレー沖の大海戦で大捷を博するといふやうに、敵性國家を撃滅すべく、極寒又は極熱の地に於て、時に前人未到のジャングルを越え、怒濤逆捲く大洋を乗越え、命をなげ出し、砲煙彈雨を冒して大活躍をしてくださつた結果、着々戦果を擴大して、香港を屠り、マニラを陥落させ、シंगाポールを席卷し、ラングーンを占領し、ボルネオに渡り、蘭印を脅伏せしめました。そして敵の重要據點は、それからそれへと壊滅の運命をたどりつつあります。銃後國民は、或は職業戰士として職場に精勵し、又は産業戰士として持場を固めてゐます。

進め一億火の玉だ

屠れ！ 米英我等の敵だ

といふ標語が現在位、ひしひしと心に沁みこんだことはありません。第一線の將士に立派に働いて貰ふためには、どうしても銃後の固めが大切です。生産勤勞に、軍需品確保に、五人前十人前の働きをしなければなりません。一億國民が火の玉となつて、戦時街道をひたむきに突進しなければなりません。

應召の將士は、元氣な顔で、國の榮譽を一身に擔つて勇躍して出征して行きます。誠にあ

りがたい限り、たのもしい限りであります。道行く人の身なりも、顔付きも、歩き方も緊張そのものです。此頃は街頭に釘一本、針金一切れも落ちてゐません。金物類が落ちてでもぬやうものなら子供達が鶉の目鷹の目で拾ふのです。そしてこれを集めて國へと献納します。この精神、この態度は誰が羨けてくれたのでせうか。たのもしい限りです。

けばけばしい女性の服装が見られなくなりました。男性には國民服が殖えて來ました。中には夏冬を通して一着の洋服で間に合はせるものもあります。金がないからではありません。品物がないからではありません。資源を愛護し、國への貯蓄を高めようとする御奉公からです。日本人の服装は和服・洋服の二重生活、住居は日本間・西洋間の二重生活、官衙・學校・會社は西洋風で、住宅は日本式の二重生活、食物は日本料理と西支料理の二重生活、家庭語と社會語と言語の二重生活、思想は個人主義と全體主義との二重生活でありました。それが大東亞戦争によつて、だんだん一元化され、日本化され、日本人としてのあるべき姿に向ひつつあることは喜ばしいことです。世紀の轉換の大戦争です。紀元二千六百年は日本的に考へて二十七世紀の初めにあたります。昭和十六年十二月八日に、大東亞戦争の宣戦の大詔が下つたのですから、正に世紀の轉換です。今までの生活に對する考へ方も、生活の仕方も

思想も行ひも、何もかも新しい發足です。この戦争を契機として再出發です。出發に後る人はありませんか。躊躇してゐる家庭はありませんか。のそのそして獨りよがりのお母様はありませんか。

汽車の中では、新聞を読むものが殖えました。そして戦争の話でもちきりです。皇軍の強いこと、米英の罪惡、戦後經營、皇軍への感謝等の話で持ちきりです。まさに國をあげての團結です。民をあげての協力です。戦争が始つてからの汽車の中は、本當に朗かになりました。多勢こみ合ふ中に、國家を談じ、將兵に感ずる話で持ちきりですから愉快です。私利私慾の話が消えて、國家興隆の話が國民の間に盛んに起るのは、まことにたのもしい風景です。汽車の片隅みで、小さくなつて闇取引のことを考へてゐるものはありませんか。他人をごまかして金儲けをしようとしてゐるものはありませんか。世界の覇權を握つてゐた米英をたたきつぶして、敵の出鼻を挫き、敵の飛行機一機もよせつけないありがたい日本に住んでゐて、今だに闇取引の惡夢にさめず、私慾の限りをつくしてゐるものあるは情けないことです。大悟一番、國心へめざむべきです。

工場といふ工場には、産業戰士の機械の音、鐵板の響きが世紀の春を壽ぐやうに、盛んに

聞えて來ます。皆が眞黒になつて、汗みどろになつて働いてゐます。職域を通しての御奉公の様子がありあり見えます。徴用令で採用された、うら若い女性も、青年も、心を合せ、氣を合せて、氣持よげに活動してゐます。

計畫經濟の影響で、町場の商人は次第次第に職場を轉向して、慣れない仕事にいそしんでをります。祖先傳來の歴史ある職業をかなぐり捨てて、轉向するその態度は、日本ならではの見られない雄々しい姿です。

青少年團が改組されて、皇國運動として強調され、學校報國團が結成されて、國家運動に参加するやうになり、壯年團が結成されて、翼賛運動の一翼となり、婦人會が大日本婦人會に統合されて、婦人運動の強化となり、町村常會が益々強化されて、生活・文化・國防の各方面にまで喰入ることになりました。國をあげての決戦組織、これでこそ戦争に勝つことが出来るのです。

家庭では消費節約から貯蓄の奨励、配給品から代用品の採用、代用食から混食まで、お母様方の心使ひはたいしたものです。その上家庭防火群から隣組の仕事、家の整理から子供の教育まで眞にせわしい世の中になりました。しかしいくら忙わしくとも、子供の教育だけは

忘れてはなりません。子供が立派に育たなければ家は滅び、國が滅亡するからであります。物資の不足、物の統制、人の徴用、出征、課税、賦役等これは皆國家が生きたためです。國家が榮えるためです。日本國家の榮えるのは、東亞民族を救ひ、解放し、東洋樂土を作るためです。不平も不足も不満も腹の中にしまつて置いて、出來得るだけの勤勞と、出來得るだけの御奉公が肝要です。

戦争はいつ迄続くか？ 恐らく米英をたたきつぶし、足腰のたたぬまで、やつつけるでせう。數十年か數百年かわかりません。いつまで續いても

戦いながらの建設

です。戦後の經營ではなくて、戦いながらの經營です。第一線ばかりが戦線ではなくて、國全體、占領地域全體が打つて一丸となつた戦線です。これが今度の戦争の一つの特徴です。史を按ずるに神武天皇日向の高千穂の峰を御發足遊ばして樞原の宮に御即位遊ばさるまで六ヶ年の歳月を要し給ふ。越えて内地平定のため四道將軍を置かれたのが紀元五百七十三年、崇神天皇の御代であります。日本武尊が熊襲を平げさせ給ひしが紀元七百五十七年、蝦夷を鎮ましめ給ふたのが七百七十年であります。又阿倍比羅夫が蝦夷を討つたのが、紀元一千三

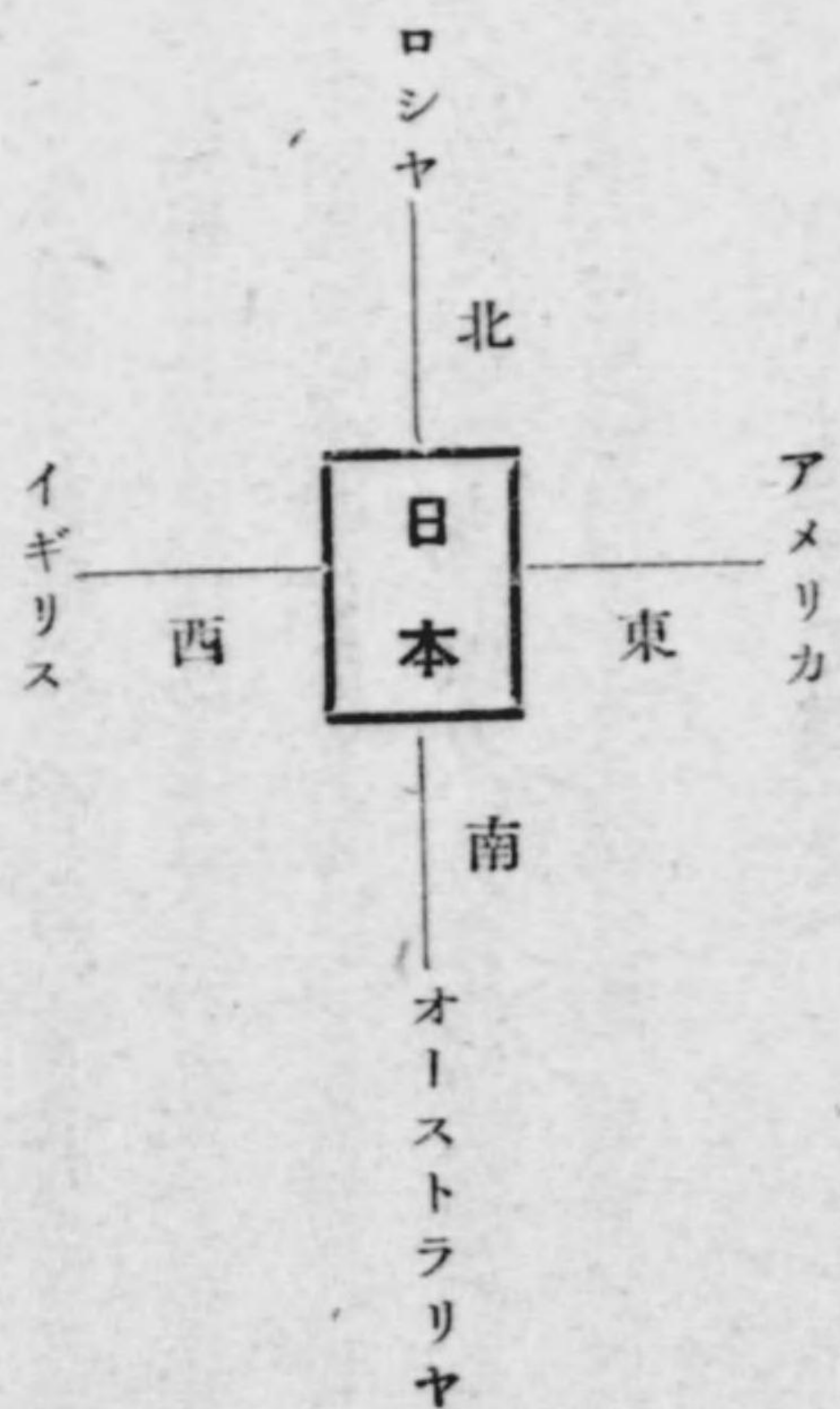
百二十年といふわけです。これから考へると、内地の平定さへも、相當の長年月を要してゐるのです。況んや大東亞戦争が一朝一夕で片付くとは思はれません。相手が米英であるだけに、長期戦を覺悟しなければなりません。五年や十年の戦争で悲鳴をあげないやうに、二十年や三十年の戦闘で尻込みしないやうに、今からの覺悟が必要です。殊に家庭の人々、わけでも御婦人の方々、中でも奥様方、お母様方の鐵石の覺悟、どこまでも戦ひ抜いて、勝ち抜くぞといふ必勝の信念が何より大切だと思ひます。

2 日本は世界の眞中だ

世界の方角の中心はどこでせうか。常識的には、イギリスのグリニッチ天文臺が經度の起點で、赤道が緯度の起點とされてゐます。東西は、東經百八十度に西經百八十度に分れ、南北は南緯九十度に、北緯九十度に分れてゐます。そしてアジヤを東洋といひ、日本のことを極東日本といつてゐましたが、さき頃奥村情報局長の言明で、極東の文字が廢されたのは御承知の通りであります。私は前々から、日本の位置を東洋といつてゐるのに不満をいだいてゐました。そして世界方位の中心は畏れ多い極みであります

わが宮城が世界の中心

と考へてをつたのです。恐らく皆さんもこのことには御賛成下さるでせう。今まで學校で使つてゐた地圖は、西洋人が作つた地圖を基にして作つたもので、米英的地圖であつたのです。その米英的地圖を基にして教育して本當の日本人を教育することはむづかしいのです。日本人を教育するためには、日本的な考への下に、日本人を教へるための地圖を作らなければなりません。



宮城を基點として、東に進んでは、アメリカ大陸となり、西方へ向つては西洋即ちイギリス

方面に、南に棹しては南洋オーストラリア方面に、北に進んではロシア大陸にぶつかるといふやうに、わが宮城が世界の方位の中心であります。かかる信念を持つて、子供を教へて下さつてこそ、立派な日本人が鍊成されるのです。殊に小さい時から、家庭に於て、この精神をぶちこむことが、日本的信念を養ふ上から誠に大切なこととなります。家庭に於ては、まづこのことを徹底させていただきたいと思ひます。

皇軍の將士が炎熱を冒し、極寒をしのんで戦つてゐるのは、東洋民族を米英の手から解放して、東洋人の東洋を作り、日本が指導者となつて、大東亞共榮圈を建設するためであります。そして延いては世界新秩序を建設するためであります。東亞共榮圈の中心が日本であり、世界新秩序の中核が日本であるならば、日本は世界の中心となるわけです。だから日本が世界の中心となることは、明瞭なことです。家庭の皆様方、お母様方、この際米英依存の思想を根本的にとり去つて、強い日本的信念によつて、すべてのことを見直して下さい。

3 日本の世界觀とは

此頃世の人々が、口を開けば八紘一字とか、八紘爲宇とかいはれます。八紘、即ち世界を

掩ふて宇となすといふ考へであります。世界中を日本的な考へ方や、物の見方や、感じ方によつて一つにし、争闘や對立をなくして、同じ氣持によつて生活させようといふ考へ方です。世界中のものゝの悪い心を矯めて善く導かうといふ精神です。日本の道を世界に宣布して世界人類を救ふのが八紘爲宇の精神になるのです。日本の道は天祖天照大神の御作りになつた道であります。肇國の精神であります。皇國の道であります。皇國の道の發祥は皇祖であられ、それが祖宗に傳はつて、今上陛下に御引繼ぎになつたのであります。今上陛下は皇國の道の宗家であり源泉であります。

その皇國の道によつて、世界人類を導くのでありますから、世界の道德も、文化も、科學も、産業も經濟も、皆皇國の道の發展であります。そこで

世界の道はわが皇室に發祥する

といふことがいへるのであります。皇國の道によつて、日本の道によつて、東洋の人類を救ふのが東亞の新秩序の建設であり、日本の道によつて、世界を救ふのが世界新秩序の建設であります。

幸ひ日本の國旗は日の丸であります。太陽のまはりを太陽系の星どもが規則正しく、運行

するやうに、日本のまはりを、世界の諸國をして規則正しくまはらせるのが、八紘爲宇の大精神であります。アメリカの國旗は星條旗ですから、もともと太陽のまはりをまはることになつてゐたのです。それなのにアメリカを恐れて、手も足も出なかつたことがをかしいと思ひます。

それから軍艦旗や、聯隊旗は、日の光が燦々と輝いてゐるすがたです。十六本の光を出して、世界を掩ふ姿です。日本が世界秩序の中心となることは、國旗の上から考へても、軍艦旗の點から見ても、聯隊旗の點から考へても明瞭なことでありました。世界人類を、皇國の道によつて導くことが日本の理想であります。日本的な考へ方で世界を見るのが日本の世界觀であります。

ところが今までの日本人は米英依存でありまして、教育も西洋教育をまね、種々なる文化も、科學もすべて西洋依存でありました。そして國民の生活様式が次第次第に西洋化して行つたのであります。みづみづしい黒髪を惜しげもなくバツサリと切つて、パーマネントをしわざ／＼ハイヒールを穿き、眉を描き、口紅をごてごてとつけてあくまで西洋化することをもつて文化人と考へて、在來の日本的のよさを一朝にしてかなぐり捨てた傾向であります。

心も身をも西洋化し、住居も食物をも西洋化したものが、時代の尖端を行く新人と考へたのであります。

皆様方これでよろしいのですか。お母様方、これが正しい考へでせうか。甚だしきに至つては、パパ・ママと呼ばしめ、お父さん・お母さんと呼ばせるのを舊式だと考へるに至つては言語道斷です。

家庭の皆様方、お母様方、どうか此の際日本の世界觀によつて、大理想をもつた堂々たる大國民を作つて下さい。それには先づ日本の世界觀をもつた、ガツシリした子供を育成することが大切です。國民學校の教育は皇國の道に則つた皇民鍊成の教育です。家庭に於ても、日本の世界觀をもつやうに教育の方法を考へて下さい。これが家庭教育の新體制の着眼の一つです。

4 革命 兒

革命兒を作つて下さい。平々凡々な呑氣な子供を作らずに、革命の子供を養成して下さい。國家はこれを要求してゐるのです。日本はこれを要求してゐるのです。

第一次の歐洲戰爭は、獨、英の勢力争ひが、その基因をなしたのです。先進國のイギリスに對して、ドイツがこれを抑へようとしての戦ひであり、イギリスは獨逸の新興勢力を抑へようとしたのが、第一次の歐洲戰爭の原因であります。

しかし今度の戰爭は、民主主義國家群と、全體主義國家群との戰爭であります。民主主義國家群を代表するものは、アメリカ・イギリスであり、全體主義國家群を代表するものは日本・ドイツ・イタリアであります。民主主義國家群は個人主義自由主義の立場からすべてのものを眺め、又行つてゐるのです。個人の自由のために國家を認め、個人の權利を擁護するために國法を認め、種々なる生活は個人の自由のための生活であると考へてゐるのです。その自由を實現するために、國家が必要だといふ考へ方をもつてゐるのです。そして口に人類の平等を唱へ、人類に對する慈善・救濟を主張してゐますが、事實はこれに反して、インドを奴隷扱ひにし、マレー人の血肉をしぼり、フィリッピンを屬領となし、ビルマを屠り、アフリカを隸屬化して來ました。その上新興國、日本・ドイツ・イタリアに對して資産凍結令を發し、物資の移出を禁じ、軍備の制限を要求して、あらゆる壓迫を加へて來たのです。この壓力に耐へかねて、毅然として反撃を加へたのが、大東亞戰爭であり、世界第二次戰爭で

あります。

彼等は口に自由を唱へ、人種平等を唱へながら、自己の驥足を伸ばさんがために、數百年の永きに亘つて、弱少國の膏血をしぼつたのであります。口に自由を唱へながら、弱少國に對して不自由を要求したのであります。世界二十億の人類の大部分は、米英の壓迫下に天日を見ずして苦しみ抜いたのであります。今次の戦争は道義の上からはまさに聖戰であります。民族解放の義戰であります。聖と義の大旗を竿上高く押し立てての、世界建直しの戦争であります。世界の歴史を轉換させるところの革命戰であります。

この戦争に勝つてこそ、世界の新しい歴史が創造されるのであります。新しい歴史を創造するための戦さでありますから並大抵の苦心ではありません。それに戦争がいつまで続くか見當がつきません。短く見ておそらく皆さんの子供の時代まではかかるでせう。子供が世界建直しの戦争、世界革命戰に参加することは、火を見るより瞭かなことであります。皆さんの子供は世界の歴史を作る革命兒です。世界を創造する革命兒であります。新しい家庭教育を施して、革命兒としての躰をなさねばなりません。舊體制的教育觀をさらりと捨てて、革命兒としての教育を望んでやまぬものであります。

赤子を育む國の母たち

一 國母の誓

1 母も兵隊

大東亞の廣い戰場に、命をなげすて働いてゐる兵隊は、皆日本の母が産んだ神州男子です。強い兵隊さんを産んだ母たちですから皆強い母達です。兵隊を産んだ母ですから、母も兵隊です。立派な兵隊です。銃をとらない兵隊です。母が強くなればなるほど日本の兵隊はいよいよ強くなるのです。私は日頃日本の母に感謝いたしてをります。それは子供が身ごもつての十ヶ月間——陣痛のなやみ——生れてから成人するまでの人知れぬ苦勞——目の中に入れてもにたくない可愛い子供を、手許から離して、國家のために立派に働かせてくださる日本の母の偉大さ！これは日本の國ならではの見られない現象です。本當にありがたいと思ひます。感謝せずにはゐられません。紀貫之が

世の中に思ひあれども子をこふる

思ひにまさる思ひなき哉

と詠んでをりますが、いとし子を戦線に送つて、老いたる身を銃後の護りに、食糧生産に、立働いてゐる母の姿は何ともいへない雄々しさであり、感嘆そのものであります。

世の若き妻が、みどり子を懐に抱きながら、夫を戦線に送り、健氣な心を持つて、雄々しく活動してゐる態度は、これまた感激そのものであります。夫が戦死した後では、幼子を片身として生育させ、やがてまた第一線に立てて、夫の後をつがせようとする、戦死者の母の意氣はすばらしいものです。だから日本は強いのです。だから日本の母は偉いのです。私は世の若き母に讃嘆措くあたはざるものであります。日本の母たちは楠正成の妻のやうに、夫を戦線に送り、子供の教育を一身に背負つて、立働いてをります。やがて子供を戦線にたせるつもりで働いてゐるのです。眞に尊い限りであります。

日本は國民皆兵の國です。國民が皆な兵隊だといふことであります。一億國民が皆な軍人でもあります。男も女も、子供も老人も皆軍人でもあります。いざといふときには、國民がいつでも兵隊になるのが日本の建前です。國民皆兵の立場から、軍人を分けると

現役軍人

在郷軍人

國民軍（國民兵とそれ以外の國民全體）

とに分れます。これから見ると、母も軍人です。第一線に立つと立たないにかゝはらず軍人です。第一線は勿論軍人であり、銃後も軍人です。軍人には

銃とる軍人

鋏とる軍人

工場の軍人

ペンとる軍人

母の軍人

娘の軍人

等があるわけであります。私は此の際、日本の母が、家庭にゐる軍人として、大元帥陛下の御爲めに一命を捨てる覺悟で、立働いて下さること、軍人的氣分を以て子女を教育して下さることを望んでやまぬものであります。

家庭も職場
家族は軍人

といふ決心をもつて、母が中心となつて、一家のことすべてを切りもりして戴きたいと存じます。今までのやうな、呑氣な、贅澤な、自由主義的な雰囲気では、時代後れの家庭になります。母も兵隊、息子は軍人、娘は兵士で、一家をあげて、皇國のためにつくす大勇猛心が必要であります。

2 國の母としての誓

お母様方は、たしかに子供の親であり、妻には相違ありませんが、しかしお母様方の身も心ものすべてが夫のものではありません。子供のものでもありません。すべては 天皇陛下のものです。國のものです。自分の體であると考へてゐたとすれば、それは大きな間違ひです。自分の體であるから自分の自由にするなどと考へてゐたとすれば、それは個人主義であり、自由主義であります。皆さんの體は陛下の御恵みによつて生れ、陛下の御指圖によつて、家庭の人となり、妻となり、母となつたのです。皆さんは子供の母であるばかりでなしに、國

の母です。此の際

國の母としての誓

をなさることが大切です。國母は國家のことのみを念頭に置いて、私利私慾は考へません。國益優先を考へるのが國母の仕事です。國の意思に従つて子供を教育するのが、國母の仕事です。

國の母は國母

に通じます。お母様方は國の母であると共に、國の穂のやうなものであります。母の力によつて國の穂がみのるのです。お母様大明神です。又

國の母は國母

に通じます。國の母は國の親指であります。お母様方の指の働きはすばらしいものです。御自重を願ひます。又

國の母は國母

に通じます。摸は「うつす」といふ意味を持つてをります。國の考へを子供にうつす役目をもつてをります。國のかんがへを子供にまねさせ、うつさせるのが母の務めとなります。又

國の母は國模

に通じます。模とは「のつとる」といふ意味があります。國の方針に則して、子供を教育するのが、母の大きな務めになります。母の一人よがりの考へで教育しては國母とはいはれません。又

國の母は國謨

に通じます。謨は「はかりごと」といふ意味であります。國のはかりごと、國策を子供に教へるのが、母としての大きな務めであります。

世の母が國の母たることを自覺し、國の母の信念によつて子供を教育すると否とは、第二國民教育上誠に大きな問題になります。願くは國をあげての母親が、國土救済の大誓願に立つて子供を教育し國の母としての使命を全うされんことを望んでやまぬものであります。

二 赤子は國寶

1 御國の子供

日本の子供は御國の子供です。御國の子供であると共に、お母様方の子供です。それはお母様方が御國のお母様でありますので、子供もお母様も御國のものです。ですから子供はお母様の子供であつて、同時に御國の子供であります。

しかし世の中には、子供は自分の子供であつて、御國の子供であることを考へないものがあります。自分の主觀によつて教育し、自分の好みによつて教育するものがありますが、これは大變な間違へであります。國家の要求するやうな子供に育てあげねばなりません。第二國民がうまく成育しなければ國家は亡びるより外はありません。國家教育の方針に反するやうな家庭教育を施せば國家は衰頹するより外ありません。

世の中には種々なるお母様方がをります。自分の子供の頭の悪いのを知らないで、成績が悪いつて、學校へどなつて來るものもあります。

自分の子供の性質の悪化してゐるのに氣がつかないで、教師が叱つたからといつて、おこつて來るものもあります。悪い子供をよくするためには、時に叱らなければなりません。尤

も大學に

人その子の悪を知ることなし

といふ言葉がありますから、お母様には、子供の性質の悪いところがわからないかも知れませんが、教師が悪いところをなほさうとして叱つたのに憤慨して、學校へやつて来るやうな態度では、その子は決して善良に育ちません。自分の子はよい子であつて、悪いことなどはしないといふ自惚れを持つてゐるから、そんなことをするのです。

子供が喧嘩したといつては、學校へしりをもつて来るものがあります。子供ですから教師が喧嘩をとめても、時に喧嘩をすることもあるでせう。子供が喧嘩したからといつて、一々學校へ尻をもつて來られてはたまらない。少しは冷靜に、自分の子供の事を調べた揚句なら兎に角、自分の子供のことは棚にあげておいて、他人の子供の悪口のみを學校へ訴へて來るのはどうかと思ひます。

中には學校の教師の教へ方が、をかしいといつておこつて來るものもあります。それは時には間違つたことも教へることもあります。さういふ時には、おこつて來なくとも、靜かに教師に話をすればよいのに、ヒステリックになつてカン高い聲で抗議を申込むに至つては

沙汰の限りであります。

又學校の教育方針と家庭教育の意見が合はないといふので、變名を書いて無切手の投書をよこしたり、新聞社に投書したりするものがありますが、こんな卑怯千萬な家庭の子供はよく育つものではありません。

子供は國寶です。國寶を育てあげるために學校があるのです。學校は國家の意思によつて教育する所ですから、家庭の要求する通りに教育して行くものではありません。その邊のことは、國の母ならわかりますが、舊體制の母にはわからないのです。殊に上流の家庭の母のわからずやにあつては、教へ子以上に手をやくものです。それと反對に、上流のわかつたお母様方の中には、學校に協力して、學校と家庭との教育に連絡をとり、學校と家庭とが一如の氣持で進んで行けるやうに仕向けて下さる方もあります。

子供は御國の子供です。お母様方の子供ではありません。お母様方の主觀で、子供の教育を考へては間違ひを生じます。御國の子供としての教育をほどこさなければなりません。子供は御國の子供でありますから、御國の寶であります。おほみたからであります。全國千三百萬の學齡兒童を、よくそだてあげるためには、千三百萬人のお母様方がしつかりしなければ

ばなりません。國の寶である赤子を教育するために、全國のお母様方に本當に眞劍になつて戴かなければなりません。

2 勅令による教育

國民學校の教育は、勅令による教育であります。上御一人の御意思によつての教育であります。國家の意思による教育であります。ですから教育の目的も、内容もはつきりときまつてをります。學校長の自分勝手の考へや、受持の教師の考へで自由に教育するものではありません。詳しく申し上げますならば、國民學校令といふ勅令に基いて、國民學校施行規則といふ文部省令が公布されてゐます。各府縣はこれに基いて、更にこまかな規則を、國民學校施行細則として公布してゐるのです。どこの國民學校でも、この三つの規則を基として經營をしてゐるのです。

しかるに世の父兄の中には、こんなことを考へないで、學校が自分の得手勝手で教育でもしてゐるかのやうに解釋するものがありますが、これは大きな間違ひです。

子供を國民學校へあげるのは、義務教育によるものであつて、國家の意思によつて學校へ

あげるのであります。兵役の義務によつて壯丁が入營するのと同じであります。壯丁が入營すると、國家の意思によつて訓練するのであります。その訓練の仕方よしあしに對しては、父兄は何等意見がましいことをいひません。國家へお任せしてあるから文句をいひません。文句をいふ方が間違つてをります。國民學校も同様ではないでせうか。國民教育所へ入校したのですから、學校當局へお任せしておくのが當然であります。文句を言ふのが間違つてゐると考ふべきであります。

私は毎年初等科一年生の入學式のとくに、保護者に向つて型の如く次のやうな話をいたしてをります。

お子様方がいよいよ満六歳になりました。國民學校に入學することになりましたことは、國家のために、御同慶に堪へません。生れ落ちるときから今日まで、よく健康に育て上げて下さいました。お預りするお子様方は、皆さんの可愛い子供であると共に國家の子供です。陛下の赤子です。

本日からお子様方をお預りいたしまして、國家の命する教育をいたします。國民學校の教育は勅令による教育でありまして、鈴木個人の考へで行ふ教育ではありません。國家の意

思による教育であります。これから國家の意思に従つて所定の教育を施す考へであります。お子様方の教育のことは、安心して學校にお任せ下さい。

しかし學校の教育方針と、家庭教育の方針とが時に齟齬することがあるかも知れません。その際校長としては、學校の教育方針を斷乎遂行いたしますから、豫め御承知下さい。一々家庭の要求を容れては、國民教育の完璧を期することは出来ません。國家教育といふ大眼目からは、私事に渡る瑣事を聞くことは出来ませんから豫め御承知下さい。もし學校の教育方針に解せない點がありましたら、遠慮なく私のところまで申出て下さい。相互に話合つて見れば大抵わかると思ひますから。

といふ話をいたします。私の學校の父兄たちは物のわかりがよいので、よく學校を信頼し、應援して下さるのは感謝の外ありません。學校側が、一々父兄側の意見や陳情を聞いてゐては、所期する教育を遂行することは出来ません。學校を信頼し、學校にまかせて貰ふより外よい方法がありません。そればかりでなしに、學校にお任せするのが、當り前であります。國民學校の教育は、國家の意圖を第一目標とし、それに町村の事情を考へ、子供の環境や、程度を考へて行ふものであります。その上教育の専門家が行ふものでありますから、素人の

考へてゐることと異つてゐることのあるは當然であります。百姓のことは百姓がよく知つてをります。餅屋は餅屋です。すべからず學校を信頼して、安心して子供を學校に託すべきだと思ひます。

三 赤子を育む國の母たち

1 忠臣の誕生

生れる子供が忠臣であるならば、國家の將來は安泰であります。逆に子供が逆臣であるならば國家の將來は暗黒であります。我々は國家の前途のため、忠臣の誕生を期待してやまぬものであります。昔から

忠臣は孝子の門に出づ

といはれてゐるやうに、親の心が正しく孝心に燃えてゐるならば、その子は自然と忠臣と

なるものであります。即ち親が正しければ、子も正しくなるし、親が不正であるならば、その子も不正となるものであります。

國家は忠臣を要求してやみません。特に大東亞戰爭遂行には、忠臣を要求すること切なるものがあります。昔から胎教が大切だといはれてをります。お母様が心を正しく持てば、その子の心も正しくなります。正しい心で子供を生み、正しい心で子供をそだて上げなければなりません。日本の母は單なる母ではありません。忠臣を生む母であります。忠臣の母體であります。

母の心掛け一つで子供はよくも悪くもなるものであります。子供を見れば家庭の様子は手にとるやうにわかります。

子供は家庭の鏡なり。

であります。殊に初等科の一年生を見れば家庭の様子は手にとるやうにわかります。子供の行爲には家庭の有様がはつきり反映してゐるものであります。殊にお母様の氣分が、明瞭に移り出てゐるものであります。これからながめても母の心構は大切なものであります。

お母様方が國を思ふ心に燃えてゐれば、それが子供に乗りうつつて、その子供も國を思ふ

ことになるものであります。

國を思ふ道に二つはなかりけり

戦の場にたつもたたぬも

であります。お母様方どうか國心をもつて子供を教育して下さい。お母様の國心は、教師の國心よりは強く響くものであります。

男性は外部的活動をする場合が多いのです。従つて社會の情勢とか、國家の状態とかはよくわかります。國家の非常態勢とか、高度國防國家建設の有様はよくわかります。一口に言へば男性は國策に準じた行爲をとるのに反して、女性は家庭にゐる時間が多いため、外部との交渉の薄い關係上、社會の様子がわからなくなつて、獨斷的な行爲をとりがちになるものであります。その上、家事上のことに追はれるから世事に疎くなるために、教育方針が時勢にあはないうやうなことがあります。この點は大いに警戒を要する點であります。

2 遺傳にみつめる

人の心には、先天的な場面と後天的な場合とがあります。先天的といふのは生れつきにそ

なはつたもの、後天的といふのは生れて後にそなはつたものことです。遺傳は先天的なものであります、先天的なものは、なかなかなほしくいものであります。後天的なものは後からつけたものですから、剝げやすいものであります。遺傳は「地がね」で、後天的なものは「鍍金」のやうなものです。地金を換へることは困難であります。「めつき」は、はげやすいものであります。

子供の身體的遺傳性をよく調査し、精神的遺傳性を見つめて、その長所を伸ばし、短所を矯めなければなりません。遺傳性と雖も、丹念にこれを矯正すれば、次第によくすることが出来るものであります。子供の遺傳性を考へないで教育しようと思つても、それは骨を折つて案外效のないものであります。

お母様方が如何に眞剣に教育をしても遺傳を考へなければ、教育の効果をあげ得ることが出来ません。狂暴性の遺傳とか、隱鬱性の遺傳とか、興奮性の遺傳とか、扁平足とか、漏斗胸とか、精神的身體的遺傳を考へて、それに適した教育を施さなければなりません。家庭教育の必要を絶叫しても、遺傳を考へなければ、よりよく子供を教育することは出来ません。

3 環境を省みて

英雄が時代を作るか、時代が英雄を作るかといふ論争は、よく聞くことでありますが、時代をはなれて英雄なく、英雄をはなれて時代はないのであります。人のすむまはりの環境をよくすることが、その人に大きな影響を及ぼすものであります。昔から孟母三遷の教へが主張されてをります。また門前の小僧習はぬ經をよむともいはれてをります。

環境は自然の中に子供に影響を及ぼすものでありますから、ゆるがせに出来ないものであります。世の賢い母は環境の整理を考へ、環境が教育上、本當に大切な所以を考へて教育を施しますが、普通の母は、この點を考へないので、教師まかせてあります。

環境として大切なものは

自然的環境

文化的環境

の二つに分れます。自然的環境といふのは、秀麗な山容とか、清楚な川の流れとか、爽かな海の空気がいふやうに自然から自然的に受ける影響をさすものであります。

又家風といふが如きも、家風によつて自然の中に子供が教育されるのでありますから、自然的影響といつて差支ありません。よい家風を作ると、子供が自然によくなります。家庭によると家憲がありますが、家憲は家風の中心をなすものであります。家風の影響の大きいことに對して

家風は朦朧として莊嚴なる巨船なり、

といはれてをります。家風は昔から傳統的に傳はつたものでありますから、家風の力は傳統の力であります。その家風は一寸見ると、朦朧としてはつきりしないが、よく見ると嚴然と控へてゐる巨船のやうなものだといふ意味であります。

家風の中心は母、

であります。お母様方が、家風の中心であります。責任者であります。心をひきしめて、立派な家風の中に子弟を教育されることが大切であります。

自然の山容とか、風景とか、自然の中に子供に及ぼす影響の大きいことは今更いふまでもないが、これは住居の選擇とか、家の建て方とか、家の方位とか、家の周圍とかを考へなければならぬといふことになります。

文化的環境といふのは、家の中の文化的な施設とか、玩具類とか、讀物とかをさすものであります。また家庭の人の文化的教養も大きな影響を及ぼすことになります。環境の整理を考へなければ、子供をよく教育することはむづかしくなります。

4 國益優先の考へ

日本の國にひろがりぬいてゐる自由主義個人主義の主張を根こそぎ打ちきるのは、相當骨が折れませう。一家の中で一番家族のためにつくすのは誰でせう。それはお父様とお母様とです。女中も下男も皆家のために働いてゐます。お父様やお母様はそれ以上家庭のために働いてゐるのです。自分を忘れて、一家のために立働いてくれるのは、お母様をもつて尤とします。子供の世話から、家事の始末まで、本當によく働いてくれます。自己を空しうしての働きは、日本の母が世界中で一番です。この點敬意を表せざるを得ません。

しかし家のために働く母に二種類あります。一つは家の發展のことばかり考へて、社會のことや國家のことを考へない。所謂家庭個人主義的な働き振りであり、今一つは、國家をよくするために家庭をよくするといふ考へのもとに働くお母様であります。この兩者は共に家

のために働いてゐるが、そこに大きな相違点があります。家庭個人主義的活動は禁止しなければなりません。そして國家主義にたつた家庭としなければなりません。お母様方、皆さんの家庭への奉仕はいづれに屬しますか。後者に屬した働きが理想的な働きであります。これによつて、子供の考へは、自然の中に國益優先の考へになるものであります。

5 どんな子供に育てるか

どんな子供に育て上げるかといふことが問題であります。教育の目標をはつきりと正しく決定することが何より大切であります。

家のためになる子にするか

親のためになる子にするか

國のためになる子にするか

といふことであります。個人主義的なお母様は、自分の子供を育てるといふことは、家のためにつくす子供を養成するのであつて、社會とか、國家のことは考へないものがあります

が、大きな間違ひであります。親のためになる子供を作るといふが、もしその子供が國家のために働かなければ家庭個人主義の子供になるからであります。家のためにもなり、親の爲にもなり、國の爲にもなる子供を作らなければなりません。

國を思つて、國の爲に働き、國に生れて、國に死すといふ大國民を養成して下さい。それがやがて家の爲になり、親のためになる子になるものであります。家庭教育の根幹は、絶忠なる子女を養成する。

といふことになります。忠の結晶體を作るのが家庭教育の務めです。この點は今までの家庭教育の上により以上是非とも昂揚しなければならぬことがらであります。全國の家庭教育を、絶忠教育に持つて行かねばなりません。昭和の母が、大東亞戦下の母が、舊概念を改めて、家庭教育新體制、新理念の下に立ち上らなければなりません。昭和十六年四月二日教育審議會に於て、日本の家庭教育の答申案が決定されました。今それを御参考までにかゝります。どうかよく味はつて下さい。これが今後の日本の家庭教育の指針となるのですから、この要項を知らなければ、今後の家庭教育は完全に遂行出来ません。面白味のない項目でせうが、是が非でもこの項目を味はつて見て下さい。

要 項

- 一 家庭教育は子女育成の基礎たるをもつて、皇國の道に則り、わが國家族制度の美風を振ひ起して、家庭生活を充實し、健實有爲なる子供を薰陶するをもつて趣旨となすこと。
- 二 家庭教育に於ては左記事項に留意すること。
 - (一) 家に對するわが國固有の觀念を把握せしめ、家族精神の眞精神に徹せしむること。
 - (二) 健全なる家風の樹立に力むるとともに、家庭生活の刷新改善を圖ること。
 - (三) 敬神崇祖の念を養ひ、家に於ける祭祀及び行事を重んずること。
 - (四) 子女の躰を重視して、その善良なる品性、剛健なる精神、淳美なる情操の涵養、正しき習慣の修得、實踐躬行の訓練に力むること。
 - (五) 子女の保健衛生に留意すること。ことに鍛鍊を重んじ強靱なる心身の育成にも力むること。
 - (六) 子女に對し科學的教養訓練を行ふこと。
 - (七) 家庭においては學校と密接周到なる連絡を圖り、子女の教養上遺憾なからしむること。

- 三 婦人諸團體をして家庭教育の振興に資せしむること。
 - 四 母の會等の施設の整備を圖り、國民學校、幼稚園、託兒所等に普及徹底せしむること。
 - 五 家庭教育に關する指導者の養成ならびに講習等の整備擴充を圖ること。
 - 六 家庭教育の研究に關する施設をなすこと。
- この要項が、今後日本の家庭教育の標準となるわけでありますから、大體この方針によつて子女を教育して戴きたいと思ひます。教育審議會が家庭教育の方針を答申したといふことは、如何に家庭教育が重要であるかを示したものであります。今まで家庭教育の方針等が國家の機關によつて答申されたことはありません。現下の時局から考へて、是非とも家庭教育を充實させなければならぬ羽目になりました。お母様方は皇國の道に則つて、わが國の家族制度の美風を振興して、家庭生活を充實し、健實有爲なる子女を薰陶すべきであります。即ち

家族制度の眞精神の徹底
健全なる家風の樹立
家庭生活の刷新改善

敬神崇祖、祭事及びその行事

— 善良なる品性

— 剛健なる精神

子女の躰 — 淳美なる情操の涵養

— 正しき習慣の習得

— 實踐躬行の訓練

強靱なる心身の育成

— 保健衛生

— 心身の鍛錬

科學的教養訓練

學校と家庭との連絡

等が主要點であります。家庭教育の新體制を十分研究させ、皇國の子女をして、皇國の道に即した、絶忠奉公の子供たらしめなければなりません。

四三つの愛

一 可愛がり方

子供の可愛くない親はありません。子供のためには、何ものをも犠牲にし、子供の面倒をみるのが自然であります。昔から親心の至情は文學にあらはれ、詩歌にことよせて表現されてゐます。

ここかしこ親鳥のなく焼野かな

湛熊

はなれ鶉や子のなく舟にもどりけり

一茶

這へ笑へ二つになるぞ今日からは

一茶

これらは皆親の愛情を詠つたものであつて、子供に對する愛情は、單に人間ばかりでなく動物一般の通有性であります。ツルゲネーフの散文詩に

私は獵から歸つて来て、庭内の並木道を歩いてゐた。獵犬のトレソルは、私の前を走つてゐた。突然トレソルは刻み足になつて、獲物を嗅ぎつけた時のやうに忍んで歩き出した。

並木道の上を見遣つた私は、其處に、嘴の黄色な、頭の上に生毛の生えた、一羽の子雀を認めた。巢から落ちたのだ。風はひどく並木の樺かほの木を揺すぶつてゐた。そして子雀は其處にちつとすくんだまま、まだ生えきらない翼を徒らにばたばたさせてゐた。

犬がそつとそれに近づいて往つた時、突然すぐ傍の木の枝から、喉の羽毛の黒い親雀が、ちやうど投げられた小石のやうに、一直線に犬のつい鼻先に飛びおりた。そして親雀は全身をぶるぶる顫ふるはせながら、あはれな懸命の叫びをあげて、大きく開いて齒並のきらめく犬の口の方へ、自ら身を投げすてるやうに、二三度飛びかゝつた。

この親雀は、わが子を助けようと思つて、身を以て庇かばつてゐるのだ。けれども、その小さな全身は恐怖のために戦そのき、その悲鳴は怪しうかれてゐた。恐しさに氣も失せんばかりでありながらも、なほ子雀のためには、親雀はわが身を投げださないではゐられないのだ。

親雀の目には、トレソルが何んなに大きな魔物に見えたに違ひない。それでもこの場合、かの女は安全な高い木の枝に自分だけ止つてゐることは出来なかつたのだ。自分の意思よりも遙かに強大な力が、親雀をして我知らず危地に飛びおりさせたのだ。

トレソルはあつけにとられたやうに、ちつと立止つてゐたが、やがて次第に後退りをし始めた。彼も亦この強大な力を感じたに違ひない。

私も、しばらくは、この思ひがけない出来ごと一度を失つてゐたが、漸く氣がついて、急いでトレソルを呼寄せた。そして、悲壯とも名づけてよい嚴肅の感に打たれながら、私は犬をつれて其處を立去つた。

さうだ、その時の私の心持の中には、笑ふことさへも許されてゐなかつた。私はこの小さな悲壯な親雀に對して、その鳥の愛情の衝動に對して、たしかに嚴肅な感に打たれて息詰るほどであつた。

今にして私はしみじみ思ふ。——愛情は死よりも、否、死の恐怖よりも強い。そして、たゞこの愛情によつてのみ、この世の生活は營み得られ、維持し得られるものであると。

これは親の愛情が、自分よりも遙かに強いものをおしのけて、それを屏息へんそくされたことを表したものであります。實際愛の力は偉大です。何物をもおしのける尊いものをもつてをります。

しかし愛には色々な種類があります。子供が可愛から可愛がるといつても、そこに愛の段階があることを知らねばなりません。可愛がることは動物でも可愛がるのでありますから、

ただ可愛がつても、子供はよくなりません。それならばどういふやうに可愛がるかといひますと、そこに考へなければならぬ種々の問題がひそんでをります。

人の親の心は闇にあらねども

子を思ふ道にまどひぬるかな

藤原兼輔

これけ子供の教養に對してどういふやうに導くか、それにまよつた心持を歌つたものであります。子供は可愛いものであつて、親の心は闇ではないが、つひ愛につりこまれて、どういふやうに教育するか、それにまよふものであることを歌つたものであります。

子供を愛する愛に三つの種類があります。

本能愛（衝動愛）

選擇愛（相手による愛）

絶對愛（神の愛）

の三つがこれであります。皆さんの愛はこの三つの中の何れかに屬するものであつて、絶對愛が最上の愛であります。絶對愛が愛としての價值あるものであります。自然愛と相對愛は、絶對愛に比較すれば、價值の少ないものであります。

2 本能愛とは

本能愛といふのは、子供がただかはいから、かはいがるといふやうに、理窟なしに愛することです。衝動のうごくがままに愛することです。可愛いから可愛がり、にくらしいからにくむ。叱りたいから叱るといふやうに、自然的な衝動的な愛であります。

本能愛は衝動の動きによつて、おこるもので、これは動物一般に共通な愛であります。修養のたりない親は、親の氣分で、子供を可愛がつたり、叱つたりいたします。しかしこれはよくありません。本能愛だけでは子供がよくなりません。可愛がるといふことはよいことではありませんが——それは愛の根本衝動ですからよいのであります。可愛がり方が、親の氣分をやつては駄目です。母親は自分の身體の調子の悪いときには、いやにヒステリックになつて、夫や子供にあたり散らしますが、氣分で愛したり、叱つたりしますと、子供がそれを真似て、いつかは氣分屋になつてしまひます。物の眞底を考へ、物事を正しく判斷するといふ大人物にはなりません。氣分屋的の淺薄な人物になるものであります。

子供を叱るときには、感情で叱るのではなくて、子供を本當によくするために叱るのであ

ります。だから叱の中に愛がちゃんと存在してゐるのです。愛すればこそ叱るのです。衝動で叱るではありません。

愛すればこそ叱るなり

これをよく味つていただきたいと思ひます。それはにこらしいから叱るのは格段の差があります。

母の情叱つて寝せた子をのぞき

乳嚙を叱りながらも齒を數へ

といふ川柳がありますが、叱るにも愛から出た叱り方、ほめるにも愛から出たほめ方を考へなければなりません。

しかし反省のたりない母親たちは、夫と争つた腹いせに子供をしかつたり、理由のない馬鹿可愛がり方をするので、子供がよく育たないといふことになるのです。

3 選擇愛とは

多くの子供の中には、色々なものが生れます。身體の丈夫な子も生れば、反對に身體の

弱いものも生れるし、頭のよい子が生れたかと思ふと、反對に頭の悪い子供が生れたり、性質のよい子が生れたかと思ふと、あまり性質のよくない子供が生れるといふ風であります。同じ親から生れるのでありますから、さう異らなくともよいと思ひますが、兄弟の顔の異るところのあるやうに、性質、頭腦、身體に差を生じてをります。

親に對する態度にしても、親を大切にする子があるかと思ふと、反對に親を粗末にするものもあるといふ状態であります。親から子供を見たとき、あの子は性質がよいから可愛いとか、あれは性質がよいから、にこしいとか考へるとすると、その愛は、子供の態度や性質によつて差等をつけるのであります。これを選擇愛と申します。選擇愛といふのは、本當の愛ではありません。すききらひによつてつける愛ですから、程度の低い愛であります。選擇愛は親だけではありません。教師の中にも、この程度の愛しかもてないものがあります。あの子供は、學問が出来るから可愛いとか、あの子は顔が美しいから可愛いとか、あの子は財産家の子弟だから可愛いといふやうなのがこれです。

しかしこの愛は相手によつて、差をつけるから差別愛だといふことにもなります。又相手によつて愛の差をつけますから、相對愛といふ言葉でも説明されてをります。同じ腹をいた

めた子供に對して差別をつけるといふことはよいことではありません。又親の好ききらひによつて、愛に差をつけるのでありますから、個人主義愛だといふことが出來ます。親の個人的な主觀によつて愛に差をつけ、愛の深淺をつけるからであります。

繼母が先妻の子をいじめるとか、繼父が先夫の子を疎んずるとかは、この愛によるものであります。選擇愛を施した結果はどうなるかといふことをよくよく考へて見る必要があります。

第一は選擇愛を施しますと、子供の性質が悪くなります。特別愛される子供は得意になり、有頂天になつて緊張を缺くやうになり、愛の足らない子供は、嫉妬心を起したり、ひねくれた性質になります。その上陰日陽を生じ、陰性的な悲觀的な子供になります。共産黨にはいつたもの等の中には、繼母をもつものや、親の愛の足りなかつたために、思想犯人となるものの比較的多いのは、この邊の消息をあらはしてゐるものであります。

第二は兄弟仲が悪くなるといふことであります。ある兄弟には豊富に品物を與へるが、ある兄弟には少ししか與へない。ある子供は親がつけ出すが、あるものは家に置きざりにする、といふやうに差等をつけることによつて、兄弟が相反目して、同心一體であるべきものが、

散り散りになるといふことになります。毛利元就が子供に、三本の矢を示して、合成力を諭しましたが、親のやり方が悪いと、合成どころか反目を敢てするやうになります。

第三は親に反目するものが生ずるといふことであります。兄弟が反目するだけではなしに愛の足りなかつた子供は、親を輕んじ、親に反抗し、反目するやうになるものであります。先妻の子が、繼母に對する反目は、差別をつけた愛の結果によることが多いことは忘るべからざることです。

第四は家族が二派になる傾向を持つといふことであります。あれはお父様の可愛がる子であるとか、これはお母様子とか、あれはお祖母様子といふやうになつて、甚だしくなると、子供のことで夫婦喧嘩を始めたり、家族争鬭を起すといふことは、世間にある笑へない事實であります。

4 絶對愛とは

絶對愛といふのが本當の愛であります。絶對愛といふのは、神の愛が、萬人共通であるやうに、親の愛がどの子にも共通的に施される愛であります。頭のよい子にも、性質のまがつ

てゐる子にも絶對的にふりそそがれる愛をさすものであります。

子供を愛することの中には、自然的本能愛がはいり、撰擇的な愛があり、神の愛の如き最高絶對なものがありますが、この絶對愛をもつて理想といたします。絶對愛は子供をして、各々その所を得しむる愛であります。子供の個性に従つて、それ相當の眞價を發揮させる愛であります。この愛によつて、子供はすすくと伸び、家族の一人として、子寶として育ち行くものであります。山上憶良が

しろがねもくがねも玉も何せむに

まされる寶子にしかめやも

と萬葉集に詠じてありますが、子寶としての本能を發揮するのは、絶對愛をほどこせばこそ、さうなるのであります。子供の幼いときから、子供の成人するまでは、並大抵の苦勞ではありません。

はへば立て、立てば歩めの母心

我が身につもる老いも忘れて

といふやうに、苦勞に苦勞をして育てても、子供が大きくなつてから、親に叛くのは、種

々なる原因があるでありませうが、その原因の一つは本能愛で育て、選擇愛で育てて、絶對愛で育てなかつたから、さうなつたといふこともいへるのであります。

絶對愛は種々な形であらわれます。今その問題に對して、次にお話いたします。絶對愛は時に春風の如くやはらかに表れることがあります。親が平靜な氣持で、常に子供に絶えざる愛を注ぐのでありますから、親から受ける感じは春風のやうにやはらかであります。植物が春さきの太陽の恩恵によつて、伸びて行くやうに、子供の心は眞直に伸びて行くものであります。

絶對愛は時に謹嚴なる容かたちを呈することがあります。子供が悪いことをしたときとか、怠けたときには、嚴然たる態度で臨みます。

鞭を惜まば子を損ふ

といふ言葉がありますが、悪いことや、なまけたことをやめさせるためには、氷雪の如き態度で臨まなければなりません。でないといふ良心に目ざめないことになるからであります。昔から寛嚴よろしきを得るといふ言葉がありますが、嚴然たるべきときは嚴として臨むことが大切であります。

絶対愛は目さきの愛ではなくて見透しをつけた愛であります。だから本當からいへば、愛の見透しをつけて置くことが肝要であります。例へば五歳の子供に注ぐ愛と、十五歳の子供に注ぐ愛とは、自らそこに差異がなければなりません。青年に向つて、子供だましの愛を注いだり、三つ子に向つて青年向きの愛をそそぐのは、まだまだ愛の注ぎ方の研究がたりないことになります。

絶対愛は國民を作る愛であります。個人的主観によつて、個人主義的な子供を作る愛ではありません。家族の御都合主義的な愛ではありません。國の寶を作る愛であります。忠臣、義臣をつくるための愛であります。忠臣義臣を作るのには、母が、妻が、夫が、父が忠臣義臣でなければなりません。親が國の心をもつて己が志とし、國の政策を身に體して子弟を教育しなければならぬのに、そんなことを考へないで、個人主義的な考へで子供を教育しては、その子供は決して立派に育ちあがるものではありません。親が國心をもつといふことが必要であります。

絶対愛は繼續しなければ價值が薄くなります。一日や二日間神様みたやうな愛をほどこしても、その後すてばなしであるならば、子供はよくなるものではありません。世の言葉に、

三日坊主といふことがあります。三日愛では子供はよくなりません。絶対愛で躰けるのですから、相當永くかゝることを豫想しなければなりません。氣が向くままの一日や二日間の愛では効果がありません。

絶対愛は實踐的な愛であります。親の口さきの愛ではありません。親が子のためを思つて、子のために働き、時に子供に模範を示す愛であります。親が國を患ひながら働くことによつて、子供の心を勵まし、引立てる愛であります。親が長火鉢の前にすわりこんで、煙草のみながら、子供によい加減なことをいつて、説きかせる愛ではありません。親が國のためを思ひ、皇國の發展のために、活動することによつて、子供に範を示す、眞劍な愛であります。

瓜のつるには茄子はならない

のであります。親の心構が、子供に及ぼす影響を考へなければなりません。

絶対愛は子供を勵ます愛であります。近江聖人中江藤樹の母が、藤樹を勵ましながら教育したあの愛であります。母の應援や、母の純情は子供の心にひしひしと、せまるものがあるものであります。母が眞劍にかゝれば、子供はかならずよくなるものであります。母の獎勵

は、子供にとつては百萬の味方にもますものであります。その點から考へても母の心は子供の心を活かし、又は殺す偉大なる力をもつてゐることを忘れてはなりません。

絶対愛といふのは神の心持をもつて、子供に注ぐ愛でありまして、愛の最高なものであります。そしてその表れ方は以上説明したやうに種々な形式であらわれます。それは丁度佛様が色々な姿となつて、ときに觀音菩薩になり、時に仁王様になるといふやうに、時に應じ、所に應じて色々な形を呈するものであります。しかし絶対愛に對する研究がたりないために、本能愛に満足し、選擇愛を施してゐる程度の愛では、本當の愛だといふことは出来ません。

どうかお母様方は、絶対愛を十分研究して、子供を御國の子供として立派に育てあげて頂きたいと思ひます。絶対愛を施さなければ、本當の偉い子供をつくることはむづかしいと思ひます。兩親の手を離れて、子供が自覺して偉くなることもあります。大抵の場合は偉い人物の母は皆賢母であり、偉大なる教育的識見と、教育の方法を體得してゐたことは忘れてはならぬことでもあります。吉田松陰の母にしても、楠正行の母にしても皆さうであります。この事を考へて見たとき、世の子供は、よき母を要求してゐることがよくわかります。殊に現下の時局から見て、一億全體が、國士的態度で國家に御奉公しなければならぬときにあた

つて、お母様方の責任はいよく、大切になつて來ました。次代をせおつて立つ第二國民の鍊成こそ、國にとつて誠に大切なものであります。

お母様方！ 國策を入れた家庭教育、國策にのつとつた絶対愛によつて子供を教育され、國の母としての責務を果し國の母としての、誇りをもち日夜子供を教育され、身體も性質も學問もすべてが優秀であるといふ大國民、しかも皇國的信念に燃えた大國民の教養に御努力あらむことを望んでやまぬものであります。

子供の生活を観る

遊びの生活

1 生活の種々相

子供はどんな生活をするものでせうか。子供の生活と、大人の生活とは同じやうでせうか。若しも子供の生活が大人の生活と同じであるならば、大人の考へで、大人なみに子供の生活を指導すればよいこととなりますが、果してどうでせうか。

子供の生活を大人なみの氣持で、指導する親がありますが、これはどうかと思ひます。子供の生活と、大人の生活とは截然たる區別があります。

子供は大人の縮圖ではない。

とは昔からいはれてゐる言葉であります。もしも子供が大人を小さくしたものであるならば、子供の身體の様子は、大人と相似形で、それを小さくした恰好でなければならぬのに、

事實はそれと反對であります。子供の恰好を見ますと、子供の頭の大きさは、身體全體から見ると、割合大きくなつてをります。又腹も膨れてをります。これは知識を吸収して、育ちあがらねばならぬ關係上、頭が割合に大きくなつてゐるのであります。又腹のふくれてゐるのは、營養をとつて立派に育ちあがらなければならぬ關係からであります。かういふやうに身體だけを見ても、大人と子供との身體の釣合には大きな差異があるやうに、精神的にも大きな差があるものであります。

子供の生活は自然的であつて無理がありません。子供の生活は遊びの生活が大部分であつて、しかも自然的であります。又大人の生活のやうに、計畫的ではありません。衝動的であります。感情の動くがままの生活であります。又子供の生活は感情的であつて、大人の生活のやうに理的ではありません。子供の生活は趣味的であつて大人が金儲けをしたり、利益を得るといふやうな經濟的な生活ではありません。彼等の生活は生命の動くがままに、こだはらない生活を續けてゐるものであります。自然的な、動物的な、素朴的な赤裸々な、こだはりのない生活の相を呈してをります。

だから大人の目で見えた世界と、子供の目で見えた世界とは、大きな差があるものであるのに、

大人の考へで、親達の氣持で、母の感情で、子供を導くといふことは子供に無理をさせる場合が多いやうです。子供からとれば暴君のやうな、壓制者のやうな、威壓者のやうな、支配者のやうな、壓迫感に打たれ、生命は萎縮し、まがる場合があるものであります。ですから母や、父や、家庭の大人は、子供の生活を理解して、これを善導することを考へなければなりません。

2 遊びの生活

子供から遊びの生活をとると、後にのこるものは睡眠生活と、食事生活の二つになります。子供が目がさめてゐる生活の中で一番長い時間の生活は遊びの生活であります。遊びの生活は子供にとつては唯一無二の生活になるものであります。子供は大人のやうな、几帳面な生活を續けるものではありません。朝何時に起きて、何時に食事をして、何時から何時まで仕事をして、何時に入浴して、何時に就寝するといふやうな、規則的な、考へた生活をするものでありません。子供の生活は、遊びそのものが生活です。遊びが子供の生命であります。このことを考へなければ、子供の指導は出来ません。

遊びの生活といつても赤ん坊のときには、睡眠生活と、お乳を飲む生活で、寝る子はふるといふ時代の生活であります。二三歳から、八歳位までは、遊びの生活が大部分を占めることとなります。これから考へて見ても子供の遊びの生活とはどんなものであるかを考へて見なければなりません。

3 遊びは生活全體

子供の遊びは、生活全體で遊んでゐるやうであります。子供が遊んでゐる様子を見ると夢中で遊んでをります。遊びの中に没入してゐるものであります。遊びに没入するといふことは、子供の體全體、心全體で遊ぶといふこととなります。全身全靈で遊ぶといふこととなります。全我を集中しての遊びといふこととなります。全力を出して遊ぶといふこととなります。

この遊びの様子を教育的に眺めて見ますと、非常に大切なこととなります。一體人間が仕事をする時には一生懸命にならなければなりません。仕事をするとき、ぼんやりしてゐたり、呑気に構へてゐたり、他の事を考へながら仕事をしては大した仕事が出来ません。仕事

をするときに、いい加減の力を出して居ては、大事業は出来ません。偉大な仕事は出来ません。大成功は出来ません。仕事をするときには一心不乱になつて、すべてを忘れて仕事そのものの中にはいつて、眞劍そのもので、ぶつかるといふことが大切であります。

それから考へると、子供が自分の遊びを、一生懸命でやるといふことは、大きくなつてから、仕事にかかつたとき眞劍にやることになるのであります。子供が一生懸命に遊んでゐるときには、いらないお世話をしたり、邪魔をしない方がよろしいのです。お母様や、お父様の氣持で、子供の遊びを干渉したり、横やりを入れるのはよくありません。

よく遊び、よく學べ、

といふ言葉がありますが、よく遊ばない子供はよく學ぶものではありません。よく遊ぶやうに導くことが、家庭の務めです。

4 遊びの特徴

大人の遊びは休養のためであつて、労働してつかれたから、日曜に休養するとか、頭を使ひすぎたから散歩するとかといふやうに、慰安とか休養の意味が強いのであります。子供

の生活はそんなものではありません。遊びそのものが、生命の伸展に、生命の開展に必要なものであります。いな遊びそのものが生命であります。ここが大人の遊びと子供の遊びの異なるところであります。しかるに世の親は、子供の遊びを見て

「また遊んでゐるのか、こつちへおいで」

などと、子供を自分の下に引きよせ、つまらぬ訓示をやつたり、遊ぶことによつて着物を汚したり、損じたりすることを恐れて、子供に遊ばせないでおとなしくさせ、衣類の切符制のたしにでもしようとか考へる親がなきにしもあらずであります。これは子供の遊びの何ものたるかを知らない證據であります。眞剣に遊ばない子供は、子供たるの資格の一つを失つてゐるものであります。身體の悪いときは遊ばせん。氣分のすぐれないときも遊ばせん。又遊びがきらひで、お母様についてゐて、お母様のやる仕事のまねをしたりする子供は、どつちかといへば早熟な子供か精神的に大人じみた子供であります。子供には子供の世界があります。その世界で、子供としての立派な使命を果す子供が大きくなつてから、大人として立派な事業をなす人となるものであります。

5 良い遊びと悪い遊び

遊びが子供の生活であるといつても、遊びの中には、よい遊びと悪い遊びとがあります。悪い遊びはやめさせて、よい遊びに善導しなければなりません。皆さんは子供の遊びをしつくりと考へて見たことがありますか。しつかりと研究したことがありますか。子供の遊びを眺めて見ると

個人主義的自由主義的な遊び

不経済的な遊び

非體育的な遊び

不道徳的な遊び

等があります。これらの遊びは矯正しなければなりません。

個人主義自由主義的な遊びといふのは、例へば、めんこ取遊びのやうに、子供がめんこをとりつこをして自分だけが面子を多くとらふとするが如き遊びであります。物のとりくらをして、自分が利益を得ようとする遊びであります。この遊びは知らず識らずの中に個人主

義を助長することになるので注意しなければなりません。

不経済的な遊びといふのは、花火遊びのやうに薬品を消耗する遊びであつて、小遣錢を多く使ふばかりでなしに、國品を消耗することになるのでとめなければなりません。

非體育的な遊びといふのは、冬の寒い時に、運動量の少ない遊び、例へば小さなガラス玉をころがす遊びとか、おはじき遊び等がこれであつて、子供が寒くて、ふるへながら遊ぶやうなのは非衛生的であります。それに前かがみになつて遊ぶので、體のためによくありません。

非道德的遊びといふのは、泥棒遊びのやうに道德を破壊させるやうな遊びをさせると、自然に悪いことをすることになるものでありますから注意を要します。

そこで家庭に於ては、よい遊びを勧めなければなりません。よい遊びとは、日本少國民として辱しくない遊びで、しかも子供の心理に適した遊びのことで、精神的にも身體的にもよいものでなければなりません。

體育的な遊び

科學的な遊び

生産的な遊び

道德的な遊び

時局的な遊び

歴史的な遊び

皇國的な遊び

といふやうなものがあります。もしも適當な遊びがなかつたならば家庭で工夫するやうにしなければなりません。

體育的な遊びといふのは、子供の體位の向上になるやうなものでありまして、繩跳びとか、陣取りとか、羽根つきのやうなもので、遊びそのものも面白いが、それが子供の身體のためになるものであらねばなりません。

科學的な遊びといふのは、その遊びが科學する心を起させ、科學の創造に資するやうなものであります。例へばグライダーの製作並にとばせ方とか、智慧輪遊びとか、積木細工とかいふものはこれに屬するものであります。

生産的遊びといふのは、庭の落葉集めとか、落穂拾ひとか、鱒とりとか、鮒つかみとか、

芹取り、わらび取り、たにし取り、いなご取りのやうに、遊びそのものが、一家の食卓をにぎはし、一家團樂の基になり、運動量も多いものであります。

道徳的遊びといふのは、忠臣双六とか、孝行双六、子助け遊びとかといふやうに、知らず識らずの中に、子供の道徳性を伸ばすものであります。道徳的遊びはよいが非道徳的遊びは禁止しなければなりません。

時局的遊びといふのは、出征遊びとか、軍艦遊びとか、大東亞地理双六とかといふやうに、時局意識を知らず識らずの中に培ふ遊びであります。時局は子供にも大いに影響してゐるのでありますから、更にこれを遊びに仕組んで指導することが大切であります。

歴史的遊びといふのは、昔から傳はつて來てゐる遊びの中で教育的な遊びのことです。郷土には其の郷土獨特の遊びがあると思ひますが、それを適當に採擇して貰ひたいと思ひます。

皇國的な遊びといふのは、日本精神を昂揚するやうな遊びであつて、お祭遊びとか、力石かづぎとか、神社境内に於ける相撲とかといふものであります。

要するに子供によい遊びを勧めて、悪い遊びはとめるといふことが大切であるのに、子供

の遊ばせ方を考へないで、悪い遊びをしてゐると、叱言をいつて、これを禁止はするが、その反面よい遊びを勧めることを忘れてゐるのはどうかと思はれます、家庭ではよい遊びを選擇して、遊ぶときには専心遊ばせることを考へなければなりません。

6 神との遊び

遊びのことを色々申し上げましたが、日本の國では、一切の生活が神の前で行つても、はづかしくないものであらねばなりません。昔から神人合一といふ言葉がありますが、神と共に、正々堂々と遊ぶといふことが大切なことでもあります。昔の人の生活は、すべての生活が神と合一してゐたものであります。遊びにしても、神の境内で、弓矢の稽古をやり、競馬場を作り、劍道をやり、相撲をやるといふやうでありました。又お祭は、一つの神事であつて、神輿をかついで、神と共に遊び、神と共に生活をしてつたのであります。神と共に遊びながら、神を信仰してをつたのであります。日本人の生活は神から離れた生活では駄目です。神様に對してはづかしい遊びでは駄目です。大人の賭博の如きは神に對して、はづかしい生活でありますから、禁止しなければなりません。子供の生活も同様であります。神様の前で

遊んではづかしくない、明朗な遊びであらねばなりません。

神と共に遊べる生活とは純真なる生活であります。遊びが純真そのものであるからであります。純真な遊び、無邪気な遊びといふことが、遊びの上から考へて大切なことになります。子供の教育に對して、學校の成績の向上を考へる親はあるが、子供の遊びを考へ、子供の純真生活を考へる親の少いのは遺憾であります。

7 遊びと教育

遊びは重要な教育であります。學校での成績がよくとも、悪い遊びをしてゐる子供は、決してよく成育しません。學校での生活は教師がよく世話して下さいますが、家庭や社會の遊びになりますと、なかなか教師の手がとどきません。そこで保護者の人達が、子供の遊びを指導しなければなりません。遊びの生活時間は放課後相當永い時間あります。その永い時間を捨てて置いては決して子供はよくなるものではありません。家庭の人達、殊にお母様方に

遊びの善導は、一大教育

といふことを認識していただきたいと思ひます。遊びを捨てて置くと、個人主義になつた

り、自由主義になつたり、不道德的なことを平氣でするやうになりますから注意が必要です。家庭教育の重要性はたくさんありますが、遊びの指導といふことが、一つの重大なる任務であることは忘れてはなりません。殊に友達の撰擇を誤ると、意外な悪い遊びを平氣でするものでありますから、特に注意が肝要であります。

8 遊ばせ方

子供の性質とか、子供の身體の状態によつて、遊ばせ方を換へなければなりません。内氣な子供には積極的な遊びをすすめ、粗暴な子供には、どつしりと落着くやうな遊びをすすめなければなりません。身體の弱い子供には、それが強くなるやうな遊びを奨励することが肝要であります。子供によると、家の中ばかりはいつてゐて、外に出るのをいやがる子供があります。さういふ子供はつとめて外に出して遊ぶやうに仕向けることが大切であります。遊びに對しては、干渉するのはよくないといひましたが、子供の状態を考へて善導しなければなりません。

又子供の住んでゐる環境によつて遊びの指導を考へなければなりません。大都會の子供は、

廣々とした場所で遊ぶことが出来ませんので、勢ひ運動量が不足して、筋肉の發達が、田舎の子供に負けるやうになります。だからつとめて日光浴を奨励し、鐵棒を備付けたり、跳箱をつくつたり、滑り臺を作つたり、攀登棒を用意したりして、場所を塞がないで遊べるやうに工夫しなければなりません。この點特に都會の家庭におすすめいたすものであります。加藤清正が

遊びに出づべく候はば、鷹狩、猪狩、相撲、かやうの儀にて遊ぶべく候

といつてゐますが、これは清正流の武士の遊びであるから一般家庭には關係ありませんが、子供の性質や、身體の狀況や、環境等を考へて遊びの指導をしなければよい効果をあげることは出来ません。

9 自發的なもの

遊びは自發的なものであります。遊びの仕方を覺えると子供は氣が向いたままに行ひます。親から何々の遊びをなさいと命ぜられて遊ぶものではありませんで、子供の意思によつて遊ぶ場合が多いやうであります。自發的に遊ぶといふことは何でもないやうであります。

これがまた非常によいところであります。自分で考へて自分で遊ぶといふことは、大きくなつてから、自分の生活を、自分の暮しを、自分の研究を、自ら考へて、自ら行ふのでありますから、自然的に獨立自營の設計をやつてゐるやうなものであります。おせつかいな親たちや、祖父母たちや、子守などが、遊びが子供の自發的であることを知らないで、干涉がましいことをするのはよくありません。これは自發性をそこなし、延いては依頼心を助長するといふ、弊害をかますからであります。

10 創造的なもの

遊びの中に創造性があるものであります。子供の生活は夢のやうでありまして、折紙の飛行機が堂々たる荒鷲となり、庭の縁臺が、立派な兵營になつて、紙の飛行機が、縁臺の兵營を襲ふ等の遊びは、考へるともなくして行はれます。マッチ箱一つが汽車になり、壘の縁が線路となつて、マッチの汽車が、壘の縁の線路を走つて行くものであります。大人の世界で考へられないことがらが、子供の世界では平氣で工夫され、創造されることになるのであります。

創造性を持ち創作性をもつことの大なる方が將來發展性があることになりす。單にその子供だけが發展するばかりではなくして、やがて國民が創造性に富むことになるからであります。創造力の強い國家は發展します。これのない國家は他國の眞似をすることになります。他國を眞似てばかりゐては他國の上にたてません。二流國家に陥る外ありません。それから考へると子供の創造性は、將來國家發展のために大切であります。遊びに於ける創造性、夢物語的の工夫は大いに奨励すべきものであります。

11 遊びの相手

老人が子守の役をつとめる家庭の子供は、活動性がにぶり、おとなしく、その上大人じみたことをいふものであります。老人は若い時分には、活動したが、現在では活動のぬけがらになつてゐるので、どつちかといふと、靜かにしてゐたい方であります。炬燵でもかかへてゐたいものが、子供のお守り役をするのですから、うまくは行きません。それと反對に子供は活動的でありますから、なか／＼老人のいふことは聞きませんが、老人は何とかかんとかいつて子供をひきずるものでありますから、子供の活動性に曇りが生じ、子供の純眞性にひ

びが生ずることになり易いものであります。

それから雇人や子守と遊ばせると、彼等には教育的識見のないために、子供に干渉し、なるべく働かないで、世話をやかないやうに子供の活動を鈍らせるか、又は反對に子供の活動を放任して置くといふ傾向をもつものであります。いづれにしても大なる缺陷を生ずるものであります。子守を使つて子供を遊ばせる家庭では、子守を教育的に躰けるといふことが、母のつとめの一つになることを忘れてはなりません。

子供を、兄や姉にみせて置くと、子供は元氣よくなります。兄姉の活動性が、自然に子供に乗り移るからであります。兄や姉は子供の年輩と大して異つてゐないために、お互の心理はあつてゐるので、互に意思の疎通がよくとれるといふ點は長所であります。何にいたせ、遊び盛りの兄や姉であるから、子供を導くといふことが足りません。

子供を遊ばせるのには、母親が一番よいのであります。色々な用事がありますので、それが出来ない場合が多いのでありますから、母親は子供の遊ばせ方を一通り知つてゐて他のものに子供を遊ばせて貰ふときには、それによつて導かせる外ありません。

子供の遊び相手は、子供の心理をよく理解してゐなければなりません。子供の心理をどう

して理解するかといひますと、それは子供の生活を凝視してそれを理解する外はありません。子供を毎日よく見てゐるのはお母様でありますから、その子の心理は

母親が偉大な心理學者

であります。お母様方、貴女方が子供の一番偉い心理學者であります。子供の心理を理解し判断して又他のものに教へてやらなければなりません。

次は子供の身體狀況を考へなければ、子供に適した遊びの指導をすることは出来ません。でないところに無理が生じ、遊ばせることによつて、かへつて子供の心身を損ふことになるからであります。子供の身體の狀況もお母様方が一番よく知つてゐるのでありますから、お母様から子供の遊び相手になる人に身體狀況をよく知らせて置かねばなりません。

子供の遊び相手になるものは、子供が活動的であり、自發的であることを知らなければなりません。子供と共に活動するといふことが一番よろしいやうであります。遊び相手が懐手をしてゐては、子供はよく遊びません。子供の心になつて——馬鹿馬鹿しいなどと考へないで、子供と共に遊ばなければなりません。

子供の遊びに干渉しないで、子供の人格を尊重するといふことが大切であります。例へば

子供が切紙細工をやつてゐるとき、そばにゐるものが、手つきが悪いの、紙の切方がまがつたなどと、あまりおせつかいをやくと、かへつて子供はいやになるといふ傾向を示すものでありますから、この點は注意しなければなりません。

子供の遊びは、大抵の場合は、ほめてやるのがよいと思ひます。あまりほめ過ぎると、有頂天になりますから、適當にほめるのがよいのです。さうすると一生懸命になつてやるものであります。子供がグライダーを作つてゐる。もうあきる時分であるといふやうなときに、「よく出来さうだね。なか／＼辛抱強いね。その辛抱強さではよいグライダーが出来たらう。」などと、子供のやつた仕事をみとめてやると、いよいよ子供は本氣を出すものであります。

12 興味生活

子供の遊びは頼まれての生活ではありません。興味によつての生活であります。興味生活といふのは、面白味を感じての生活でありますから、子供にとつてはたのしい生活であります。それを親の目で見てもあぶないとか、おそろしいとか、といつて、あまり干渉するのはよ

くありません。子供は高い場所から跳ることが好きです。これは跳躍運動をやつてゐるので、さう危険なものではありません。とめないでやらせて置くがよいと思ひます。又子供は高い木に上ることを好むものであります。高い木に上るのは高い理想をもつて、下を見下すといふ子供の發展性にも關係があり、體育的にも効果が有り、又將來大空を駆けまはる荒鷲の豫備修行をやるやうなものでありますから、特別な注意を與へ、眞剣な、緊張した氣持で上らせれば、さう危険はないものであります。水泳は子供の好むものであります。水泳の時には、水のきれいなところで、指導者をつけて遊ばせるといふことが大切であります。將來の皇軍は水泳が出来ないと、不便だと思ひますので、指導者をつけて水に親しませることが肝要であります。

遊びは興味が中心であります。興味が有るために、その遊びに熱中しすぎて、遊びに溺れ勝ちでありますので、適當な注意が必要になつて來ます。碁將棋をやるものは親の死に目にはあはぬといふことがいはれてをりますが、これは碁將棋に溺れることをいましめたものであります。碁や將棋は思考的作戰力を鍊るもので、適當に指導すれば教育的効果のあるものであります。將棋は敵の王様を攻めとる棋でありまして、攻撃的精神の強いものであります。

敵の王様を攻撃するために味方の陣營を整へて攻撃にはいりますが、角といひ、飛車といひ、金、銀、桂馬、香、歩といひ、皆自分の職域を守りながら王様のために働くやうになつてをります。王を守つて、王のためにつくすといふのでありますから、これは皇國の道にかなつた技であります。なほ面白いことは、敵の駒をとると、それを味方に同化して、味方として活動させるものであります。又圍碁は、お互に版圖を多くとればよいのでありまして、これは國威を次第におし廣めることにも通じ、又敵を包圍してとつた石は、味方に同化して味方の役に立てるといふ組織であります。碁とか將棋にしても、かかる意味から、適當の時間行はせるならば、大した弊害はないといふことになりませんが、永い時間行はせることは、大きな弊害を生ずるから注意を要します。遊びに興味を持つことは、やがてこれを趣味化するこゝとになります。趣味を持てば、そのことが楽しみになつて、苦しみも何も忘れることになるものであります。子供の時代に趣味的生活をさせるといふことは、やがて大人になつて、一つの仕事をするとき、その仕事の眞價を悟り、仕事をたのしんで、仕事が生生活の中に本當に喰ひ込むことになるものであります。

足曳の山の木の葉をおし分けて

働きながら遊びけるかも

働くことが遊びとなつて、初めて本當の人生々活が味へるものであります。働くことは嫌やだが、しかたがないから働くといふのでは、まだまだ本當の仕事の味を知つたとはいへません。仕事の味を知つてしまふと、働くことがたのしみとなるものであります。大倉喜八郎翁が

今日はよく働いたと、夕方になつて考へるほど、私に大きな楽しみはなかつた。といつてをられますが、これは働くことが趣味になつた證據であります。

九十九里の豊海町に小栗山喜次郎といふ、九十九里隨一といはれる網主がをります。小栗山翁は貧賤より身をおこして、現在の地盤を獲得した人でありまして、まさに立志傳中の人でもあります。小栗山翁の家の前の廣大なる冷蔵庫には、鰯や、鱈の冷凍したものや加工したものが山と積まれてあります。その冷蔵庫の上に望樓があります。翁は毎日望樓にのぼり、望遠鏡で沖を眺め、沖の波の色、雲の工合、風の向き等を綜合して、その日の漁を推斷して舟を出してゐます。又漁船がかへる夕風ぎ頃になると、望遠鏡を手にして沖をジイッと見てゐるのが常であります。或るとき翁を訪ねて、四方八方の話をしてゐる中に翁が「沖の舟を

見れば、舟の中が見えなくとも、魚のとれ工合がわかるものです」といはれました。永い間の修練の結果であると思ひます。又曰く

「私には何の娛樂もないが、海を見るのが、道樂です」

といはれました。海を見る道樂が、小栗山翁をして現在の成功をさせたものだと思ひます。子供の遊びも同様です。遊びは興味的なものであり、趣味的なものであります。子供時代の趣味的生活が、大人になつてから、自分の職務に對して趣味を感じしむるやう、教育しなければなりません。子供時代の趣味生活の態度が、連続して青年の生活に於ける趣味的態度となり、それが大人の生活を趣味化するやうに指導するのが理想であります。

一一 情意の動き

1 情意生活

子供に理窟をいつても、理窟になびくものではありません。子供は理窟の生活よりは、情意の生活が主であるからであります。子供に物を見せると、ほしいと言ひます。又はすきだとか、きらひだとかいひます。物の判断の仕方が、理窟で判断するのではなくて、感情でものをきめるものであります。子供はいやになれば、誰が何といつてもいやになるものであります。子供が泣き出したら、泣いた理由を考へて、その心の動きに合ふやうにしてやらなければ、なか／＼やみません。お母様方が子供をつれて買ひ物に行くと、親の買ふものよりは、自分のほしいものを見つけて、その場所をはなれません。その品物を握つてはなしません。これは理窟よりは情意の生活が主であるからであります。

子供をすかすのに、理窟ですかしたり、おどかしてすかすのは、子供のさばき方を知らないものです。理窟のよしあしのわからないものに、理窟をいつて見てもどうにもなりません。それを理窟せめにするのは困つたことだと思ひます。子供を導くには、子供の情意の動きを見て、機先を制して導かなければなりません。國民學校に於ける低學年の指導にしても、幼稚園の指導にしても、その要領は

情意中心

といふことであります。情意中心といふことは、子供の心をあきさせないやうに、それからそれへと導いて行くことであります。低學年の先生方が色々な教具を作つたり、繪芝居を授業中に織込んだり、童話を入れたりするのは、この精神に外ありません。

家庭に於ても、子供は情意的生活をするものであることを考へて、大人が考へたやうな理窟による叱言をいつたり、理窟による導き方をしないやうにしなければなりません。子供はいやになると泣いたり、怒つたり、途中で仕事をやめたりするのは、感情が強いから、自分の生活を理窟でおさへることが出来ないからであります。人間は「感情の動物だ」といわれますが、大人にしてもなか／＼理窟では承知しません。表面理窟にまけても、屁理窟で對抗します。屁理窟をいふのは感情が承知しないで、感情が理窟をいはせるのです。況んや子供は感情が強いものでありますから、無理をしないで、感情にさからはず、次第に感情をやはらげて導かねばなりません。

情意生活が強いといふことは、喜怒哀樂を、赤裸々に出すといふことにもなります。子供の生活は大人の生活に比べて、喜怒哀樂を率直に出すものであります。又すきとか、きらひとかの感情の動きが明瞭にあらはれるものであります。子供が喧嘩を

するのは、怒りとか、きらひとかの感情がほどばしるためであります。それならば情意生活をどう導いたらよいかといふことについて述べて見ます。

2 情意生活の導き方

情意の生活が主であることは、縷々のべましたが、これをどう導いたらよいかといひますと、第一に考へることは、情意生活を弱めてはならないといふことであります。情意生活は、一つの衝動から來るものでありまして、衝動は強く大きいのがよいのであります。情意にしても

強く、大きい情意

といふことが、先づ考へられるのであります。衝動が大きいとか、情意が強いといふことは、人間の活力が強いといふことになります。活力の強いものは導きやうでは、偉大な仕事をやるものであります。悪人が悟ると、これまた偉い仕事をやるものであります。悪いことをした者が悟つて一世の大事業をした例はたくさんあります。しかし衝動の大きいもの、情意生活の大なるものがかならず悪いことをするとはきまつてをりません。

衝動の中にも、情意生活の中にも、よいものと悪いものがあります。よい衝動や情意生活ならば結構であります。もしも悪いものが出た場合でも子供の場合には、これを善導して、頭から衝動の芽を切らないことが肝要であります。昔から衝動の弱い人間は、ぐづな人間でありまして、大した仕事はいたしません。

水をも濁さぬ善人、といふ言葉がありますが、こんな人間は、たいした仕事はしません。だから子供を見て活力の強いのはむしろ喜ぶべきであります。

第二には弱めないで純化するといふことが大切であります。純化するといふことは、悪い方に向いてゐた力を良い方へ向はせることであります。毎日鋸を持ち出して庭の立木を疵つけて居た子供の力を、よく導いて薪を切る方へ向けるのは一つの純化であります。餓鬼大將になつて、悪戯の親方になるやうな子供は意力の強い子供でありますので、その意力を利用して、社會奉仕に導く等はこれでありませす。すべて教育には純化といふことが必要であります。荒削りしてあつたものを、次第次第によい方へ導いて行かなければなりません。

純化するといふことは、根を立切ることでなく、方向をむけなほすといふことであります。お母様の持つてゐるものをほしがる子供に對しては、お母様が、子供のためになる繪

本とか、書籍を興へてやることによつて、自然に子供は純化されるといふことになるものがあります。

3 総合的な生活

子供の物の見方や考へ方や感じ方は総合的です。一つの花を見るときに、花全體として眺めて、美しい花だとか、すきな花だとかいふやうに、分析しないで、全體の上から眺めるものであります。大人の観察は、子供のやうに総合的ではありません。この花は何科の植物だとか、雄蕊が何本だとか、蟲媒花だとか、風媒花だとかといふやうに、分析的に眺めるものであります。これは子供が情意中心な全體的な活動をするのに反し、大人は知的分析的な傾向を持つてゐるからであります。

子供の生活は、大人のやうに分析的ではなくて、総合的未分化的であります。全體的であります。子供は大人のやうに科學的ではありません。科學的に、知的に、秩序的に物を見るものではありません。情意を中心としての全體的活動であることは、國民學校に於ける教科が、小學校時代の教科に比べて総合的であることから見ても、この事がわかります。子供の

時は総合的全體的に物を見るのですから、この時代のことを

未分化時代

と申します。それが次第に成長するに従つて、だんだんこまかな所まで分析的に研究するやうになるものでありまして、これを

分化時代

といひます。初等科の一二年までは総合的で、三年から四年頃までは、半綜合時代で、五年から六年以上になると、次第に分化的になつて行くものであります。この分化時代を経過すると、再び物を総合的に眺めるやうになるものであります。即ち

綜合時代

にかへるものであります。だから初めの綜合は

未分化的綜合時代

であつて、次は

科學的分化時代

であり、最後は

悟りの綜合時代

となるものであります。これを花に譬へるならば、未分化の綜合時代は、蕾の時代であります。蕾は蕾全體として眺めるより外眺めやうがないのであります。次に科學的分化の時代は、花の開いた時のやうなものであります。花の色や、花の中の構造を細かにしらべて見るといふやうな状態であります。最後の悟りの綜合時代といふのは、實つたものに、譬へることが出來ます。實はまとまつた一つの全體であつて、實がなることは、植物にまとまりのついた姿であるからであります。又これを軍艦を見物するときにとふれば、最初軍艦を見たときには、その偉大な姿に驚きます。これが、未分化的綜合的直觀であります。次に軍艦を細かに觀察することによつて細部の性能を知るものであります。これは科學的分化的直觀と申します。細部の機關や機能を知つて、最後には、いよいよもつて軍艦の性能を知つて、再び軍艦の偉大なることを理解するものであつて、これを悟りの綜合直觀といひます。

子供は未分化の綜合時代でありますので、あまり早くから科學的分析的なことを教へない方がよいのです。一二年の子供に、こまかなことを教へるのが早教育だと考へるのは、大きな間違ひであります。これは誤れる早教育で、かへつて無理をするために子供の心身を害す

るものであります。子供の心理の發達の状態を考へて指導しなければなりません。低學年の子供の扱ひをどうするかといふこまかな問題は、受持の教師と相談して行ふことが一番安全な道であります。

4 主觀的な生活

小さい子供には、自分のものと、他人のものとの區別がつかねるものであります。すべての他の者は自分と同じだと考へ易いものであります。植物も動物も人間のやうな生命を持つてゐると考へ易いものであります。初等科の一二年の子供が、童話をすくのは、子供の心が未分化で、主觀的で、すべてのものが子供と同じやうであると考へるから、木が口をきいても、龜と兎が會話をして不思議に思はないのであります。ある人は此の時代の子供のことを、童話時代の子供といつてをりますが、これはこの時代の子供が主觀的であることをいふたものであります。

子供は自分の思ふことを、どこまでも主張してこれをおし通すのも、主觀的であるからであります。この時代の子供はなか／＼我が強くて、自分のものと、他人のものとの區別が

かない傾向を示すものであります。

5 直情的傾向

感情が強いから、物事にかつとなつて、直情的な傾向を示します。一寸したことにカッとなつたり、ひよつとしたことに驚いたりするのは、このためであります。子供は直情的で、怒り易くて、又さめ易いものであります。大人のやうに冷静な判断をして物を処理するといふやうではなくて、感情の動くがままに行動するものであります。親に注意されると、急に怒り出す。怒つたと思つて捨てて置くと、間もなく怒りからさめるといふやうなことは、しばしば見受けることであります。子供は

泣き、笑ひするものである。

といはれますが、これは子供の直情的なことを現はした言葉であります。しかしこの直情的な傾向は、教育の力によつて次第に純化しなければなりません。子供の特徴だからといつていつまでも捨てて置いては、決してよい子にはなりません。時を見て無理のないやうになほさなければなりません。

6 感情傳達の早さ

一瀉千里といふ言葉がありますが、感情が他人に傳はる早さは誠に早いものであります。子供もさうであります。親の感情はただちに子供に傳つて、子供に影響することは、誠に大きいものであります。

親の感情が、目にあらはれ、口元にあらはれ、顔の筋肉にあらはれると、子供は逸早くこれを感じるものであります。親の不用意な感情の表現によつて、子供をよくしたり、悪くしたりすることは甚大であります。親が氣品高い感情をもつてゐれば、自然に子供によい影響を及ぼし、低劣な感情の動きをもつてゐますと、それが子供に及ぼす影響も又大きなものであります。

昔の賢母は、子供をよくするために、神佛に願をかけ、自分の修養を怠らなかつたのであります。子供の前で、あけすけ感情を發散するのは、赤裸々のやうであります。子供に及ぼす影響は誠に大きなものがあります。殊に母親の感化は偉大でありますから、世の母はこの點をよく慎まなければなりません。

7 言葉の訓練

感情の傳達が早いやうに、言葉の傳達も早いものであります。言葉の中には、感情も理知も、意思もはいつてをりますが、感情の次には、言葉の傳達がすばやいものであることを知らねばなりません。今國民學校では言葉の訓練をやかましくいつてをります。日本語の世界宣布といふことに力を入れてゐるので、學校では言葉の訓練に骨を折つてをります。しかるに家庭に於ては、言葉の訓練をおろそかにし易い傾向であることは遺憾に堪へません。言葉の悪いことは、下品に見えます。それに今後の日本は、少くとも、正しい日本語を大東亞共榮圏内に傳へなければなりませんので、標準語を徹底させなければなりません。そのためには家庭の言葉を標準語化する必要にせまられてゐます。家庭を標準語化するためにはお母様方の力を藉りなければなりません。お母様方が言葉の使用に力を入れて下さると、家庭の言葉は案外早く良くなるものであります。言葉の中には感情が多分にはいつてゐるので、傳達が非常に早くなるものであります。

これからの國語教育は、學校だけの國語教育では成績をあげることは出来ません。家庭で

も、社會でも、標準語を普及徹底させることを考へて戴かなければなりません。滿洲や南洋に移往するものが正しい標準語を傳へないと、誤つた日本語が、彼の地に傳はることになつて、國語の世界宣布の上から遺憾の點を生ずるからであります。

三 模倣と創造

1 模倣性と子供

子供は模倣性の強いもので、よく他人の眞似をします。他人の眞似をするといふのが、子供の特性の一つであります。これは子供が成長するためには、他のよいところをとつて、自分のものにし、次第に生命が開展しようとする本能性によるものであります。少年時代には、特に模倣性が強いものであります。先年私の學校の或る學級の子供が頭をかく癖が出来ました。ちつとまづいことがあると、すぐに頭をかくといふ風であつて、それが

一人や二人ではありません。學級のほとんどがさうであつたので、不思議に思つて原因の調査にとりかかりました。さうすると、その原動力が教師にあつたのであります。その教師は、何かしくじりがあると、すぐに頭をかく癖をもつておました。それが知らず識らずのうちに、受持の子供に移つたのであります。

子供は目上のものとか、自分の尊敬してゐるものの行爲はよく真似るものであります。教師の態度を真似、姿勢を真似たり、言葉を真似たり、文字を真似たりするものですから、油斷が出来ません。

家庭に於ても、家庭のものの真似をするのですから、うつかりしてはゐられません。子供に向つて

君達の御母様はどういふやうな恰好で御飯をたべますか。

と聞いて見たことがあります。どの子供も、實に上手にお母様の食事作法の真似をしました。真似どころではありません。生きうつしそのままでした。

作法にかなつた食べ方をするお母様

御飯をかき込むお母様

お箸をにぎつたままお椀を持つお母様

大口をあいて食べるお母様

立膝でたべるお母様

大きな聲を出しながら食べるお母様

等色々ありました。子供は家庭の人達のやることはよく模倣いたします。殊に家庭の中で

も

子供の信頼するもの

子供に多く接するもの

の真似は殊の外よくやるものでありますから、御留意が肝要であります。

子供に模倣性があるといふことは、教育的に見て、都合のよいこととなります。模倣性があるから、教師や、家庭の指導者が模範的なことをすれば、自然に子供が、それを真似るといふこととなります。學校では模倣性を利用して、これを教育的に應用してをります。學校教育では教師の垂範といふことを重く見ます。これは先生が手本を示すといふことであります。先生が子供に生きた手本を示してやるのです。さうすると子供はすぐにそれをまねるも

のであります。教師が跳箱をとぶと、子供も飛びたくなる。教師が習字をやると子供もやりたくなるといふやうに、垂範といふことが、大切なことの一つになつてをります。それから上級生のやることはよく真似るものであります。学校の成績をあげようとすれば、上級生をよくしないと、下級生がよくなりません。

このことを家庭教育にもつてくると、家庭教育の中心となる方が、常に子供によい手本を示すといふことが必要かくべからざることになります。身をもつて率ゐるといふことが大切であります。親が身をもつて率ゐないで、顎のさきで指圖しても子供はよくなるものではありません。

門前の小僧習はぬ經を讀む

といふのは、門前の子供は、お經は習はないが自然に御經を覺えるといふことをいつたもので、子供の模倣性の偉大なことを示したものであります。

家庭の教育で模倣性とよく利用すれば、子供はよくなるが、悪くすると、悪いことを真似るといふことになります。立派な家風を作つて、それを真似させるといふことが、大切なことであります。

2 創造性と子供

日本の國は、神代の時代から、發展に發展を遂げて現在に至りました。模倣によつて祖先のよいところをまね、世界各国の長所を採入れ、その上創造性を働かせて、現代の文化にまで、水準が上つてきたのであります。文化を模倣するといふことも大切であります。創造といふことがその上大切であります。

子供は日本の國の空氣を呼吸して、日本傳統の中に生活し、御國の歴史の中に生活してをりますが、それと共に將來日本の歴史を創造發展せしむる大役を持つてゐるものであります。日本の歴史を作るやうな子供にしなければなりません。八紘爲宇の大精神を發揮するためには、自然科学も、藝能も、精神科學も、一大飛躍しなければなりません。飛躍といふことは現狀に満足しないで、創造的發展的であるといふことになります。

わが皇室の祖神達が、國土を生み、神を生み、自然のありとあらゆるものを生んだやうな創造の精神をもつて、日本國の一大飛躍を考へなければなりません。子供の創造性を大にすることが、國家發展の上から考へて、きはめて大切であります。

子供の創造力は大人以上であります。しかし子供の創造力は時には幻想的になつたり、誇大妄想的になつて、秩序的計畫ではありませんが、たしかに創造力は大人以上に旺盛であります。大臣大將を夢み、火星に飛びつかんとするやうな想像力創造性を隨所に發揮するものであります。家庭で子供が大きなことをいふと、それを抑壓したり、ひやかしたりすることは、かへつて子供の創造性を損ふことになりすから注意を要します。偉大な創造性を次第に現實化するやうに導くことが、家庭の務であり、母の務であります。お母様方にしても、子供が偉大な創造をやり、創作をやり、發明をすることは望むところでありませう。ですからこの芽をつままないで、伸ばすことを考へなければなりません。お母様方が、發明發見、創作創造の助手になるつもりで應援なさることが大切であることを忘れてはなりません。

四 活動性と子供

1 活動性を見つめて

子供がお婆さんのお守りをいやがるといふことは、お婆さんは活動することをきらふが、子供はそれと反對に活動的であるからであります。靜かにしてゐる子供は、どこかが悪いからであります。子供は常に動いてをります。これは活動して、心身を發達させようとする本能性がさうさせるのでありませう。お母様方の中に

・ うちの子供はあばれ過ぎまして

うちの子供は腕白でして

うちの子供はよく着物をきつて

うちの子供はうるさくて

などとよく言ひますが、それでよいのです。活動するのが、子供の特性であるといふことをよく知つていただきたいと思ひます。私の永い間の經驗によりますと、小さいときの腕白ものが、大人になつてから溫良になつてゐるものが相當あります。小さいときのあばれ者は青年期になると、グツと變つておとなしくなるのが通例であるやうです。小さいときに牛のやうに、落着いてゐる少年が、大人になると、元氣よくなるのも見受けれます。これから見ると、小さいときの活動性は大して氣になりません。

子供の活動性には三つの種類があります。

大人じみた活動をする子供

上調子の活動をする子供

腹ごたへのある活動をする子供

がこれであります。大人じみた活動する子供は、ませた考へをもつた子供でありまして、警戒の必要があります。なるべく無邪氣になるやうに、指導しなければなりません。大人じみた活動をするといふことは、早熟性によるものと、家庭の環境から来るものとあります。いづれにしても家庭の環境を教育的にしなければなりません。

上調子の活動をするのは、物を浅く見、浅く考へるからであります。大きくなつてからも上調子では困りますので、小さいときに、上調子の子供には落着かせるやうに、物の見方考へ方を導ねなければなりません。教師に依頼して矯正することも一つの方法ですが、家庭自らがこれにあたらなければなりません。あわてる子供には、智慧輪遊びとか、積木細工等で落着かせ、上調子の子供には、魚釣りとか、顕微鏡による物の観察とかをさせると、次第に落着き、又家族全體が揃つて、短い時間でもよいから、静坐をすると、子供もそれと一しよに坐

るから、自然に落着くことになります。

腹ごたへのある活動をする子供は、前途有望であります。この種の子供の中には、腹が黒いやうに見えるものがあります。腹が黒いわけではないが、物を見通す力の強いために、腹が黒いやうにも、えらさうにも見えるのであります。かかる子供は、ちよつと見ると大人じみて明朗性をかく恐れがありますから、努めて明朗性を與へることを考へなければなりません。

2 明朗潤達な子供

あまり家庭が嚴格すぎると、子供はいぢけてしまひます。といつて放任してある家庭の子供は粗暴になり勝ちでありますので、兩方とも氣をつけなければなりません。活動的である子供は明朗であり、潤達であるやうであります。私は教育者の立場から、低學年の教室を眺めたとき、元氣がなくて、明朗性を缺いてゐるやうな教場を

お通夜學級

葬式學級

といつて、悪口をいつてをります。一年生や二年生の教室へはいつたとき、お通夜にいつたときのやうな感じのする教室や、葬式にでも行つたときのやうに冷たい感じのする學級は、學級主任の經營法がまづいからであります。それと同じやうに、ある家へ行つて、子供にあつたとき、大人びた、冷たい感じのする家庭教育は、餘程考慮を要するものがあります。將來大東亞の盟主となり、進んでは世界の新秩序を改める大國民となる子供を養成するのでありますから、明朗潤達に育てあげなければなりません。明朗潤達といつても單なる上調子の子供をさすのではありません。直觀力が強く、意思が強く、しかも明朗潤達な子供をさすのであります。やがて大いなる氣力をもつて、國を興し、家を興す大人物を作るのが家庭の大きな使命でありますので、特にこの留意をお願いいたします。

3 發展的生命

人間の中で發展的生命の旺盛なのは、子供に若くものはありません。子供の睡眠時間の多いのは、發展せんがための休養であり、力の貯藏であり、睡眠が成長であるからであります。大人の睡眠は休養で疲勞恢復程度であります。子供のは疲勞を恢復しただけではなくて、

睡眠時間が、力の貯蓄であり、生命の開展となるものであります。

寝る子は肥る、といふのは、寝てゐて、心身が發展してゐるのを物語つてゐるものであります。老人になるとだんだん睡眠時間が減少します。それは老人は大して活動しないし、疲勞を恢復する程度の睡眠をとればよいからであります。しかし子供には十分な睡眠時間をとらせなければなりません。親の好みによつて、夜晩くまで活動寫眞をみせたり、芝居見物等をさせるのは、子供の心身發展に弊害を生ずることを知らなければなりません。

食事にしてもさうであります。子供はよく食べます。青年期になつてもよく食べます。これは彼等の生命の必要にせまられての、内からの欲求からであります。食べることは差支ないのであります。間食に對しては特別注意しなければなりません。

睡眠と食事だけでなしに、子供の精神は非常な勢ひで伸びてゐます。記憶力のよいこと、直觀力のすばらしいこと、鑑賞力のするどいこと等でもよくわかります。要は家庭に於て、子供の精神の糧となる書籍を興へ、又子供のためになる玩具を興へ、科學心、藝術心を伸ばすのに必要な物を興へるといふことが大切であります。

五 御國の子供

1 子供の心理

子供の心理を知らなければ、子供を養育することも導くことも出来ないから、子供の心理の研究が必要だといはれてをります。なるほど子供の心理の研究の必要なことはわかつてをります。それなら誰の書いた心理學がよいかといひますと、今ここで、はつきりと、この本がよいから讀んだ方がよいでせうと、皆さんにおすすめる本は見つかりません。子供の心理の研究者は、お母様方自身です。お母様方は、お子さんを毎日毎日育ててゐますので、子供の心理はよくわかつてゐるわけでありす。お母様方の記録が一番たしかな心理學的記録であります。だから子供をよく見つめれば、おのづから子供の心理はよくわかるわけでありす。心理學の本を讀んでも具體的なことは書いてありません。一般的なことを研究する上か

らは心理學の研究もよいのですが、貴女の子供の心理は、貴女が一番よくわかつてゐるわけですから、毎日一生懸命に子供に接してゐれば自然にそれがよくわかるわけです。

雷をまねて腹がけやつとさせ

といふ川柳がありますが、親には子供の心理がよくわかるものであります。泣き聲で病氣を知り、飢ゑを判断するやうに、母親は實に偉大なる心理學者であります。これは親の愛情から、自然に研究された本當の研究であります。借りものの研究ではありません。私はお母様方の具體的な尊い育児記録によつて、日本の子供の心理は明瞭にわかることと思ひます。お母様方が子供の心理學者になつたつもりで研究することをすすめてやまぬものであります。

2 御國の子供

御國の子供と、西洋の子供とは異つてをります。御國の子供と、西洋の子供の顔や姿が異なるやうに、心理も異つてをります。人間ですから共通なところもありますが、御國の子供には、御國の子供としての特徴があります。

それは日本といふ國土に、しかも三千年の久しきに渡つて、皇室を中心として生活した國

民でありますから、外國人と氣風生活が異つてゐるやうに、子供の心理も異つてゐるわけです。だから日本の子供の心理は西洋の兒童心理の物指では、はかれないものがあります。日本の子供には、御國ぶりをもつた心理があります。西洋の兒童心理を研究してもあまり役にたかないといふのはさういふわけです。

御國の子供の心理は、武士道精神や、町人道や、農士道や、歴史的な習慣や日本の風土等に影響されてゐることが大であります。私はどなたかが御國の子供を研究して、日本の兒童心理をうちたてて下さることを望んでやまぬものであります。

國民學校を觀る

一朝の學校

1 登校の美しさ

道の兩側には、タンボボやスマレが、ところどころに咲いてゐた。道に沿ふて溝が掘られてあつた。メダカが何十匹もスイスイと泳いでゐたが、由紀子の足音が聞えると、逸早く水の中に、かすかな濁りをたてて、もぐつて行つてしまつた。道といつても此頃出来たものらしく土の新しい匂ひがところ／＼に残つてゐた。それでも砂利を入れ、石炭がらを入れたと見えて、さばさばしてゐて、落着きある足どりで、歩くことが出来た。

由紀子は、小さい時友達とよくこの邊へ遊びに来たものだつた。その時分は一面の田で、道らしい道はなかつた。鮎をつかんだり、鱈をとつたり、摘草をしたり、芹取りをしたものだつた。九十九里の波の音を、はるかに聞きながら、どこまでも廣い青空を眺めながら、空

の裾が九十九里の平野におほひかぶさるのを見ながら、のんびりとした春の日を送つたことが夢のやうに思ひ出されて來た。

それから二十年あまりの月日がたつた。だから田圃の様子が變るのも無理はないと思つた。由紀子の歩いてゐる道は、日吉の町並に平行に、鐵道線路の下側に、一直線につくられた通學道路であつた。

道路から少しはいつたところに、巍然と聳えてゐるのが、日吉の新校舎であつた。由紀子は、息子の國彦を入學さすべく、學校を訪問するところであつた。由紀子は南國雄に嫁いであつたから、バタバヤで雜貨商を営んでゐたが、A B C D包圍陣の壓迫をうけたので、夫だけを殘して、しかたなしに國彦をつれて由紀子の親許である日吉へ歸つて來たのである。

學校へ近づくとつれて、輕快な正常歩のレコードが聞え出した。通學生が、新宿の方からも、岩崎の方からも、上宿からも、堀上からも、北の幸谷からも、田間からも、學校へ向つて歩いてくるのが手にとるやうに見えた。

子供達の一團一團が、きちんとならんで、歩いてくるのは、兵隊の一箇小隊がかたまつて歩いてゐるやうにも見えた。そしてどの團體も、どの團體も、レコードに足をあはせて、サ

ツサツと歩いてくる様子は、南洋の學校では見られない整つた有様であつた。

由紀子のうしろの方の遙か向ふの道からも數團の子供が、歩いて來るのが見えた。由紀子は、その子供に追いつかれないやうに、こゝろもち早あしで歩いて見た。しかし子供は次第次第に由紀子に近づいて來た。由紀子はまけまいと思つて一生懸命に歩いた。が、やつぱりだんだん子供は追いついてきた。

成程、子供の早いのは、レコードに足をあはせるからだ。こつちもレコードにあはせれば追つかれはしない。

などと、變なところへ意地をはつて、レコードに足をあはせようとしたが、どうもあはさない。レコードの拍子に合ふやうには、足がまめに動かなかつた。初めの二足や三足はどうやら合ふが、後が續かなかつた。子供はと見ると、どの團體も、皆足がきちんとあつてゐた。校門の前には、門衛の子供が紅白の襷を、右肩から左へかけて立つてゐた。一人の子供が門に立つてゐると、その脇に帳簿を持つた子供が控へてゐた。登校の團體は門衛の前へ來るとビタリととまつた。團の指揮者が、「頭右ッ」といふ號令をかけると、全部の子供がビタリと門衛の方を向いた。門衛は兵隊さんのやうに擧手の禮をした。團の指揮者は「直れ」とい

ふ號令をかけて「田間第二分團總員三十六名、事故一名、現在員三十五名、事故の一名は初等科五男二の組水野次郎、風邪で缺席しました。終り」と報告してから、校庭にはいつた門衛の助手は、手帳にそのことを記してゐた。

由紀子はびつくりしてしまつた。それは由紀子が學校へ通つてゐる時分には、こんなことをしないで、一人一人が思ひ思ひに、學校へ通つたのに、今の子供は、部落別に並んでその上學校の電氣蓄音機のレコードに合せて、足並を描へて登校してゐる。その上門衛が軍隊式であつたので、ちよつとどきもを抜かれたからである。

學校の看板が國民學校となつてゐた。由紀子の時は小學校で、山の下の古い校舎であつたが、今の日吉の學校は、田圃の王様見たやうに、田圃の中にしつかと立ちあがつてゐる。何から何までが目新しく感じられる。そして教育も變れば變るものだと思つた。

小學校から國民學校への變り方

その變り方を知らなければ、國彦をこの學校へ頼むのはをこがましいと思つた。その上學校の教育方針がわからないで、學校のやることは、學校と家庭がチグハグになり、國彦をよく育てることはむづかしい。何にしてもこの學校の様子をよく見届けようと考へた。

由紀子は學校へ行つて、校長に會つてお坐なりの挨拶をして、國彦の入學の手續きをすればよいだらうなどと、至つて氣輕な考へで出かけて來たが、子供の團體的正常歩を見たり、校門の様子を見て何ともいへない不安が胸にせまつて來た。

母たるの資格があるかしら

子供の教育の方向がわからなくなつた。

國彦はこの學校で、人並にやつてゆけるかしら

などと、色々な感じが、心の中にとめどもなく浮んで來て、恐怖と不安とで胸が一杯になつた。國彦をかういふ學校へ入れて、やつてのけられないと、あの子が可哀さうだとも考へた。

2 御眞影への拜禮

校門を、堂々と歩調を描へてはいつて行つた子供は、暫くすると、キチンととまつた。團體の班長が

「全體とまれッ、左向け左」といふ號令をかけた。皆はその號令通りに動いてゐる。子供の

向いた遙か向ふには、こんもりとした小さな森が運動場の一角にあつた。森の中央には、神殿造りのお宮があつた。

由紀子は見るともなしにそれを見た。そして非常になつかしきを感じた。そのお宮は、由紀子のゐる時分にはもとの校舎に安置されてあつた御眞影奉安殿であつたからである。奉安殿は小川藏司さんといふ方が、煙草をやめて、その金を貯金して、二千圓になつたとき、御眞影奉安殿を建てて學校へ寄附したものだつたからである。その御眞影が新校舎に移轉されたのだつた。子供はしばらくの間御眞影を凝視してゐたが、やがて班長が「拜禮」と號令をかける、皆が一しよに頭を下げた。禮の仕方が丁寧で、至誠そのものであつた。「直れ」の號令で、もとの姿勢になつたが、また再び御眞影をみつめてゐる。やがて班長が、「各教室へ向つて進め」と號令をかけると、同級生らしいのが二列にならんで、教室の方へ向つて歩いて行つた。

御眞影に對する禮の仕方が丁寧でよく出来てゐると思つた。

3 玄關番

學校の玄關は、コンクリート造りのすばらしいものであつた。玄關へはいつたばかりで、おしつけられるやうな氣分が自然に由紀子の心におしよせて來た。由紀子は思はず襟元をきちんと直した。

玄關の前に大きな黒金剛くろかねもろの木があつた。樹齡は數百年たつたであらう。一寸見ただけで古木だといふことがわかつた。大樹を見たときの心の落着は、人間共通のものであらう。由紀子は國元へもどつて、久しぶりで大樹に接しゆとりのある氣持になつた。玄關といひ、大樹といひ、何とはなしに偉大な印象を由紀子に與へた。この學校を訪れた人は、大抵由紀子と同じやうな感じに打たれるといふから、この學校の子供も毎日同じやうな印象を受けてゐることと思つた。

由紀子が玄關にはいると、高等科の女生徒らしいのが二人立つてゐた。そして由紀子が玄關へはいると、丁寧に禮をして

「いらつしやいまし」

「どうぞお上り下さい」

「お荷物をお持ちいたします」

といつて、荷物を持つた。スリッパをさし出した。

「恐れ入りますが、校長先生にこの名刺をさし上げて一寸お目にかゝりたいと申して下さいませ」

と頼むと、子供の一人は

「ハイ、只今この名刺を校長先生に差上げて一寸お目にかゝりたいと申します」

と復唱して、奥の方へはいつて行つた。今一人の子が

「どうぞお上り下さい」

といつて應接室へ案内してくれた。しばらくたつと、校長室へ使ひに行つた子が

「暫くお待ち下さい。校長先生がまゐりますから」

と挨拶した。お茶が出た。子供の手に入れてくれたものである。作法も、言葉遣ひも非常によかつた。由紀子の小學校時代とは雲泥の差であると思つた。小學校が國民學校に變つたせゐかとも考へて見た。昔は學校へお客が來ても見向きもしないし、お禮などしないのが、一般の學校の風であつたのに、此の頃の學校は異つたものだと思つた。

4 職員 の 行

暫く待つてゐたが、校長は來なかつた。そのうち、高等科の男兒らしい大きい生徒がラッパを吹いた。職員が職員室の方へ集つて行つた。子供に聞いたら職員の朝會の時間だといつた。どんなことをするのかと思つて、職員室をのぞきにいつた。

職員室には、男の教師が二列に、女の教師が二列に立つてならんでゐた。校長は男と女の中央の一步前にゐた。職員が正面の神棚に向つて、二禮二拍手はたしゅをした。そしてその後で一禮一揖いさを行つた。それが終ると職員信條といふのを讀んだ。それは

一、師たる者宜しく皇國道に徹し、以て日本の世界觀を確立すべし。

二、師は教學に殉じゆんずるをもつて命となすべし。

三、師は回光返照えいこうへんしやう常にわが身を顧み、靜思深慮せいししんりよの行を積むべし。

といふのであつた。

此の頃の教師は毎朝行をやるのか。變れば變る世の中だ。昔の教師は、額で子供を指圖してゐて、子供に働かせたものであるのに、此の學校の職員は朝の七時半から行をするのださ

うだ。職員がさきに行をやつて、それから子供と一しよに仕事をやるのださうだ。

教師の模範によつて、子供はそれについて、

といふのが、この学校の建前だといふことだ。國民學校になつてからは、殊にかういふ氣持が強くなつたといふことである。

子供の登校の訓練といひ、御眞影拜禮の様子といひ、玄關の子供當番といひ、職員行といひ、この頃の學校は随分眞劍になつてきたものだと思つた。今日はどうしても校長にあつて、一通りこの學校の話を伺つて、その上、國彦の今までのことをも話して置かうと決心した。

5 貴女の子供ではない

校長はどつかと應接間の椅子に腰を下した。四十過ぎたであらう。頭の毛のところ／＼に白髪がちらほら見えてゐた。しかしひきしまつた顔、眼光の冴えたところから見ると、普通の校長とも思へなかつた。由紀子は國彦のことをたのまうとして

「校長先生、私は今までジャヴアのバタバヤにをつたのですが、今度の戦争で、夫だけをのこして、子供と二人で、親元へ來たので、子供を先生におあづかり願ひたいと思ふので

すが——その子は國彦といつて初等科の三年になるのですが、どうぞよろしく願ひいたします」

といふと、校長は

「さうですか、おあづかりは致しますが、一應申して置きたいことがあります。國彦さんは貴女の御生みになつたお子様ですが、貴女の子供ではありません。陛下の赤子です。御國の子供です。

私が國彦さんを教育するといふことは、貴女に頼まれたから教育するものではありません。國家教育の方針によつて——義務教育の方針によつて——教育するのです。

子供を學校へ入學させるのは、國家の意思による教育です。國家の示すところによつての教育です。父兄のための教育ではありません。だから御子様は、貴女の子ではなくて、陛下の赤子です。赤子としての教育をするのが國民學校です。だから國民學校では一々家庭の要求する教育はいたしません。むしろ逆に國家教育の方針によつて、家庭に要求することが多いと思ひますから、あらかじめ御承知下さい。

くれぐれも申しますが、國彦さんは陛下の赤子です。だから國民學校の方針で教育い

たします。そのつもりで入學させて下さい
ときつぱりといはれた。

陛下の赤子！ 御國の子供！ 教育は學校へ任せて！ 貴女のいふ通りにはなりません。
といふ言葉が、由紀子の耳に強く響いた。パタビヤにゐたときには、夫が居留民會の理事
をしてゐたので、居留民の學校では相當に巾をきかせてをつたし、我儘もいつてゐたが、こ
こへ來ては、どうにもなりさうもないと思はれた。

子供は陛下の赤子！

だといつても、父兄として學校教育に嘴を入れてはいけないものかしら、今までの慣習か
らいへば、有力な父兄や、後援會の幹部連中は、相當に學校のことに、嘴を入れて、時に校
長に抗議を申込んだり、時に受持に喰つてかかつたりしたのだが、校長にあのやうにいはれ
て見れば、それもさうだとうなづかれる節もあつた。それに校長は自信たつぷり言ひ放つて
ゐるところを見れば、あの校長に泣きごとをいつて見ても受附けてはくれないだらう。とに
かく校長に一任して置いて見よう。女の身でくよくよくしても始らないからと、半ばあきらめ
をもつて歸つた。

6 耐寒 駢かけ歩もじ

日吉の學校では毎朝駢歩を行つてゐる。二軒づつ駢せさせるさうだ。運動場のまはりま
はつたり、町へ出かけたりするといふことを聞いた。由紀子が參觀に行つたのは、一月の終
りであつたが、職員と子供が上着をとつて、運動場をかけてゐた。輕快な駢歩のレコードが
電蓄を通して響いてゐた。裸體の子供もだいぶあつた。随分無理ではないかと思はれたが、
子供は平氣で駢けつづけてゐた。

何んでも駢歩を始めてから六ヶ年になるさうだ。初めの中は父兄から抗議が出て、子供が
死んでしまふとか、病氣になつてしまふなどと、非難が多かつたさうであるが、校長はたう
とう頑張り通して來たとのことである。今では非難どころか、子供の身體の丈夫になつたの
で、父兄は大喜びである。由紀子も、始めて國彦を入學させた當座は、あんなに駢せさせて、
子供の身體が續くかどうか心配だつた。しかし子供は順應性が強いと見えて間もなく平氣
で駢けるやうになつた。父兄の話によると、ある家の子供が丸星中學の入學選抜に行つたと
き、丸星中學では、選抜の一つの方法として、千米の駢歩をやらせたさうである。外から來

た子供は、息をきつて、はあはあかけたが、この學校から行つた子供は平氣で千米駈けて、中學の先生を驚かせたとのことである。

どうして駈歩を仕込んだかといふことを聞いたら、最初は運動場を一まはりさせ、次に二周りさせ、次に三周させて、次第に回数をふやすやうにして訓練して行くとのことであつた。ちよつと保護者が見ると、無理のやうなことでも、先生方は秩序だつた指導をして下さるので、その點は安心してよいと思つた。保護者の中には、學校で行ふことを理解しないで、學校へ文句をいつて來るものがあるが、これは大きな見當違ひである。學校へ難癖をつける前に、學校へ行つて教育状態を見ることが大切だと思つた。

7 教室での朝禮

國民學校になつてから、どこの學校でも行を行つてゐるさうである。行のやり方は學校によつて異つてゐることであるが、學級で行ふか又は學校全體で行ふのが通例ださうである。駈足が終つてから、國彦の教室へ行つて見たら、朝の行が始るところだつた。子供は教室にはいるのに、一々禮をしてからはいつて行つた。教室の正面には神棚があつた。朝の行

は神棚に對する行であつた。神棚の左右には御神があがつてゐた。

一同が神棚に對して一齊に禮をした。當番の子供三人が前へ出た。一人は神棚に供物を上げる役をした。他の二人は供物の運び手であつた。供物をあげ終ると、三人の子供は下がつた。受持教師が真中へ行つた。子供は教師と共に軽い會釋をして一揖をした。次に二禮をしてから二拍手をした。禮の仕方といひ、拍手の仕方といひ、誠にすばらしい出来ばえであつた。禮の仕方、ちやんと腰からかかめてするし、拍手も目の高さまで手をあげ、それを肩のはばまで開いて、シャンシャンと手をうつた。うち方は素人ばなれがしてゐた。拍手が終ると全級一齊に、祝詞を奏上した。この聲も力強かつた。その上よく揃つてゐた。祝詞が終ると、一人の子供が

皇軍の武運長久を祈り、戦歿將士の英靈に感謝致します

と、おごそかにのべた。その眞剣な態度、すきとほつた聲を聞いて、由紀子の目がしらはひとりでに熱くなつた。子供にわからないやうにそつとハンカチで目をふいた。その後しばらくの間、子供等は祈念黙禱を續けてゐた。神棚には明々と御燈明がともつてゐる。周圍は靜かで、何ともいへない莊嚴な、そして靜寂な感じに打たれた。祈念が終ると、明治天皇の

御製の朗唱が始つた。

國を思ふ道に二つはなかりけり

戦の場に立つも立たぬも

と、非常に澄んだ落着きのある聲で、朗唱が行はれた。御製の朗唱も今まで随分聞いたが、今日位莊嚴、嚴肅な氣分に打たれたことはなかつた。それが終ると供物をさげて行は終つた。由紀子は今日位嚴肅な朝の氣分に打たれたことはなかつた。子供が毎朝かういふ行をやることによつて、日本國民として正しく強く育つて行くことを考へると、何となく嬉しかつた。學校で敬神の念を養つてくれるのであるから、家庭でも養はなければならぬと思つた。しかし由紀子の家には神棚はなかつた。それが愧しかつた。國彦のためには神棚を安置してやらねばならぬと考へた。しかし神棚を祭つてから、朝晩の拜禮が出来るかどうかと、自分の心を反省して見た。

由紀子の小學校時代には、神様や、佛様を拜むのは老人の仕事だと思つてゐた。子供や青年で神様を拜んだり、佛様を拜んだりするものはなかつた。由紀子は結婚してから今まで、とんと神棚は拜まなかつた。それでいいと考へてゐたからである。しかし國彦の學級を見て

強く反省した。早速神棚を祭つて老母と國彦との三人で毎日神仕へをしようと決心した。

何でも學校で神棚を祭つてから、町中の神棚が八十あまり殖えたといふことを、受持の宮本先生から聞いた。神棚を祭つてゐるのは、この學級だけではなくて、どの學級にも祭つてゐるから、それ位は殖えてゐるかも知れないと思つた。小學校時代の教育を受けたものが、今日日本の國民學校の母となつてゐるのであるから、これからの母は餘程修養しないと、國民學校教育の精神がわからないことになる。さうして學校の教育精神と、家庭の教育精神とが、喰違ひを生じてくる。そして子供は學校の教育方針に従つたらよいか、家庭の教育方針に従つたらよいかと、迷つて、困りぬくことになる。困りはてるばかりでなしに、子供がよく育たないことにもなるだらう。家庭の仕事も忙しいが、つとめて學校へ行つて、子供の様子を見ると共に、先生方から、國民學校の精神を教へてもらはうと考へた。

8 講堂での行

土曜日の朝である。九十九里は黒潮の影響を受けてゐるから冬でも暖かであるといつてもこの朝は寒かつた。寒暖計が零下三度を示してゐた。今日は講堂の行のある日なので、それ

を見るため由紀子は朝早く學校へ來たのである。老母がこの寒いのに學校へ行かなくとも、暖い日があるだらうにと、とめたが、國彦の教育のためには、國民學校の教育の仕方を通り知つて置くことが、自分の責務と考へたからである。子供は運動場をかけてゐたが、やがて駈歩が終ると、學級ごとに揃つて上着をつけた。

講堂の中から、大鼓の音がドン、ドン、ドン、ドドドンドン、と鳴つた。子供は各學級毎に整列した。誰も號令をかけないが、自然と眞直にならんだ。やがて又太鼓がなつた。今度の太鼓は終りの止めのところが、ドン、ドン、ドン、ドン、ドドドンドンと二つなつてとまつた。さうすると子供は、靜かに講堂にはいつてきた。姿勢は非常によかつた。そして踵かかとをついて歩いてゐた。脇を見るものも、話をするものも勿論なかつた。千人位の子供が無言ではいつて行つた。全部の子供がはいつてしまふと、今度また太鼓がなつた。その打ち方は初めの方は同じであつたが、終りの方がドドドド、ドンドンドンと三つ止めであつた。この太鼓が終ると、校長がドアをあけて、はいつてきた。そして子供の方をチラツと見てから、何ともいはないで、講堂の壇上の階段に足を踏み出した。落着いたものである。一段ごとに足を揃へて上つて行つた。講堂の壇上は、三間に五間であるので随分廣かつた。中

央に見臺が出してあつた。見臺は、校長のすわる坐の前に置かれてあつた。

校長は壇上に立つてから、全體の學童を見渡した。子供は一齊に禮をした。校長が答禮をした。今度は校長が正面の御影奉安所に拜禮をして起きあがると、全校の教師學童が御製の奉唱をした。

朝みどり澄みわたりたる大空の

ひろきをおのが心ともがな

といふ御製であつた。奉唱が終ると、校長は見臺の前に行つて、靜かに坐つた。子供もそれにつれて坐つて行つた。全部の子供が坐り終ると、鐘がポーン、ポーン、ポーンと三點なつた。子供は手を膝の上へ組んで靜坐を始めた。鐘の音は長い餘韻をのこしてゐた。鐘の音が低くなるにつれて子供の氣はいよいよ澄んで來たやうだ。由紀子も子供と一しよにすわつて見た。寒さのために膝のまはりがひやりとした。ひやりとしたが、間もなく暖かになつた。どの子供も、どの子供も眞劍にすわつてゐた。話一つするものもなかつた。

しばらくすると、校長が壇上からおりて、子供の坐り方を見てまはつた。時々校長が子供の前へ行つて、エイと氣合をかけた。子供は平氣でゐた。これを見ると餘程修練が積んで

ゐることがわかつた。十分位静坐をしたと思つたとき、鐘がまた二點なつた。子供は鐘と共に壇上の校長に一禮をした。校長は

「講堂の行のときは、いつまでも鐘の音をきく人がよいのです。鐘の音をどこまでもききなさい。聞えない鐘の音を聞きなさい。鐘の音をきいて、他のものには氣をとらはれないやうにきなさい。飛行機の音は飛行機にまかせて置きなさい。風の音は風にまかせて置きなさい。皆さんは咳をするが、咳は咳にまかせて置きなさい。鼻汁は出るにまかせて置きなさい」

といふ訓話をされた。

校長が立ち上ると、子供は校長といつしよに立ちあがつた。全部の子供が立ち上ると、太鼓の音がドンとなつて、一同は退堂して行つた。

この行で感心したのは、職員が子供の先頭にキチンとすわつて居ることである。そのすわり方が子供の方を向かないで、子供と同じ向きに校長の方を向いてゐることだつた。校長の方を向いてゐるので、自分の受持の子供が、いたづらをしてゐても、脇見をしてゐても、トンとわかるわけがない。しかしこの學校の子供は一人として、脇見をするものがないことが

不思議に思はれた。

子供の方を向いてすわればよいのに、わざわざ子供に背を向けてすわるのが不思議であつた。片山先生にそのわけを聞いたら、片山先生は

「別に不思議なことはありません。子供の前に、キチンとすわると、子供は自分の受持の先生がしつかりとすわつてゐると思つて、一生懸命になつて坐るものです」

と平氣な顔で言はれた。教師が子供に背中を向けて、キチンとすわると子供が、自然によくすわるといふことを聞いて、ハツと山紀子の胸をさすものがあつた。

教師が模範を示せば子供が自然にまねる——親の模範が何よりの教育だ

と知つたとき、由紀子の體中から、冷汗が沁み出て来るやうな感じがした。山紀子は國彦に對して、よい模範を示してゐるだらうか。老母に對して毎朝挨拶すらしらない。自分が起きて朝飯の準備もしないで、六十近い老人に飯をたかせてゐる。老母が何か言ふと、かならず口返答をする。——これでは國彦はよくなるならぬだらう。それに神棚に對する拜禮も、まだ國彦の模範になるやうには出来ない。——それからそれへと、自分の缺點が、とめどもなく浮び上つて來た。

校長が

「一筋に鐘の音を聞きなさい。

聞えない鐘の音を聞きなさい。

飛行機は飛ぶにまかせて置きなさい。

風は吹くにまかせなさい。

咳は出るにまかせ、鼻はたれさがるにまかせなさい」

といはれた言葉は、禪味を帯びた言葉であつたが、これにも感心した。由紀子は一筋に夫國雄の鐘の音を聞いて夫に仕へて來たのであらうか。夫は今、バタビヤで雜貨商を再び始めたから安心だが、日本軍が占領するまでは随分苦勞をした。いや戦争の始る前に、夫と同居してゐたとき、夫に反抗し、夫につくすことよりも、自分の衣類のことや、化粧のことを考へ、又は昔の戀人のことを思ひ出したりして、夫へのつくし方がたりなかつた。今後は十分夫につくさなければならぬ。それにしても、内地のかういふ立派な學校へ子供をあげて見ると、國彦を再び南洋の學校へあげるのも考へものだと思つた。といつて老母に國彦を托して行くのも無責任だとも考へた。南洋の教育と内地の教育の變らないやうな——内地と外地

とが一體となつた教育——校長も、教員も、大東亞共榮圈を一環して交流人事が出来ないものだらうか。でなければ南洋の子供を扱つてしつかり教育してくれる國民學校の寄宿舎は出来ないものであらうか。この學校へさういふ寄宿舎が附設されるならば、由紀子はいち早く國彦を依頼するのだがと考へた。

一筋に鐘の音を聞きなさいといふことは、職域に専心奉公せよといふことにも通ずると思つた。子供のうちから、自分の進むべきことがらに、まともに心を集中させる訓練を行つてくれれば、授業時間に氣が散らないことになる。大きくなつてからは、脇見もしないで、職域に奉公することにもなる。その上すわることによつて、子供が落着いて來る。あわてものがなくなるだらうとも考へた。

由紀子は床板の上で講堂行をやるといふことを聞いて、随分非常識なことをするものだと思つてゐた。しかし今日子供と一しよに坐つて見て、無理でないことがわかつた。坐つたときはひやりと冷たかつたが、坐つてゐる中に暖かになつてきて、かへつて氣持がよかつた。世の中のは、眺めたことと、行ふこととは餘程大きな差のあることを知つた。この學校がかういふ經營をしてから十年になるさうだ。初めの中は校長始め職員達に對する外部の誤

解が相当大きかつたので、これをとくの、なか／＼苦心されたさうである。此の頃は餘程わかつてきたといふ話ではあるが、それでも時々學校のやつてゐることを變に解釋するものもあるさうである。時々父兄を呼んで、子供の行つてゐるところを見せること——いや見ただけでは駄目だから父兄に行つて貰ふと學校を本當に理解することになると思つた。今日子供と一しよに講堂に坐つたことは、親として、保護者として非常によい體驗だつたと由紀子は一人ほほゑんだ。

9 國旗掲揚式

この學校の國旗掲揚式は一寸變つてゐた。世間一般の學校のやり方に比べると、風變りといはうか——とにかく異つてゐた。

氣をツケのラッパが鳴ると、全校の生徒が、その場で瞑想を一分間行ふ。續いて集合ラッパで一目散に集合、集合の終るまで一分以内である。三千坪の運動場から集つて來るのに一分間以内は随分早いと思つた。それでゐて子供の整列がよく出来ることは軍隊のやうであつた。國旗掲揚の體形はコノ字形であつた。國旗を中心としたコノ字形であつた。由紀子はコ

の字形の後方から參觀した。この間講堂行を見てから、學校の參觀を時々行はうとして近所の父兄をさそつて來たのである。

この學校は全國的に有名であるので、年々五千人以上の視察者が來るさうである。遠いところでは南米のブラジルから、蘭印から、南洋から、中華民國から、滿洲からといふやうに、毎日他地方からの視察者で大變である。この間も北海道の旭川の青雲の國民學校から島村といふ青年訓導が視察に來て、十日間も滞在してゐたさうである。十日間の滞在だといふことを聞いて、新宿の大塚吉之助氏が義俠心を出して、自分の家へとめて置いたさうである。他縣のものが視察に來るのだからその點はたいしたものである。教師が視察に來るだけではない、町村長や學務員の視察も相當あるやうだ。この間は東京の下谷の練塀の國民學校の母の會の人達が二十人あまりやつて來たといふことだから、この學校の母の會の一人である由紀子が同志をさそつて、學校を視察することは、當然だと考へた。

整列が終ると嚙喰たる國の鎮めのラッパが吹奏された。校長が戦闘帽で出てこられた。全員が校長に對して敬禮した。校長は舉手の禮で答禮した。國旗があがると、全校の生徒が國旗に注目した。それが定規をあてたやうにキチンと揃つてゐた。國旗は翩翻と大空に上つて

行つた。海行かばの曲がおごそかに吹奏された。國旗の上つて行くのを遠くで見た氣持は何ともいへない莊嚴なものであつた。この學校がコノ字の體形を取つたのは、遠くから國旗の上つて行く様子を眺めさせて嚴肅感を起させようとしたからである。南洋で見た國旗の有難さもさることながら、この學校の國旗掲揚にも實際感激性が湧いてゐるのが、ありありと見えた。

國旗掲揚が終ると、全員が宮城の方向にむいて最敬禮を行つた。最敬禮が終ると次に宣誓が行はれた。全員が陛下に宣誓するのであるから、これも嚴肅な感に打たれた。それが終ると君が代のラッパが吹奏されて國旗掲揚は終つた。

國旗掲揚式は、今までそちこちで見したが、今日位莊嚴な感じに打たれたことはなかつた。千人以上の子供がピンと緊張してゐて、體を動したり、頭を動したりするものは一人もなかつた。勿論話などをする生徒は一人もなかつた、といふ有様であつた。國旗掲揚が形式的に行はれるのでは意味がないが、かういふやうに行ふならば、子供に及ぼす効果は大きいものだらうと思つた。このやうな精神で子供を鍛へてくれるなら、これからの子供はキツとよく育つだらう。國民學校の教育は、たしかに良い。よい日本人を養成するには、國民學校の

精神でやらなければ駄目だと思つた。今の子供が大きくなつたなら、世界中の何處へ出しても、ひげをとらないだらうし、それに精神がしつかりしてゐるから、他の民族を指導し、これを同化して行くことが出来るだらう。末たのもしい子供達であると思つた。

學校の國旗掲揚式はよく行つてゐるが、自分の家の國旗掲揚式はどうかしらと——由紀子は家のことを考へて見た。四大節の朝、家の國旗のあげ方は、世間に對する義理であげたり、形式的にあげたりするのではないかしら、それに國旗をあげる時、國彦にあげさせようとする、なかなかあげないので叱言をいふ。さうすると國彦がぶりぶりしながらガタンガタンとあげる。やむを得ずあげるのだから、嚴肅味も莊嚴味もない。家庭の國旗をあげる時、家族三名がならんであげては如何なものか、ならんであげて、次に宮城遙拜をするやうにしよう——それが名案だと考へた。そしてこのことはよいことだから町内會に提案して、各家庭で國旗を掲揚するときには、家族全部が整列して掲揚し、國旗を下すときにも、さうしようとして考へた。又國旗は桐の箱に入れて、床の間に飾つて置かねばならない。學校のは桐の箱にはいつてゐるから、家でもさうしようとして考へた。

この學校へ入學させてから、國彦は一日一日とよくなつて行つた。その上由紀子が學校へ

足を運ぶやうになつてから、おぼろげながら國民學校の精神がいくらかなりと、わかつて行くやうな氣がして何となく心がひろくなつて行つた。

10 少年團訓練

子供が部落別にならんでゐる。分團長の指揮で、部落主任の教師に敬禮して人員を報告して居た。部落の人員報告が終ると校長が壇上に立たれた。總指揮の川島先生が、「團長に敬禮、頭中」と號令をかけて擧手の禮をした。校長も擧手の禮をされた。それが終ると、校長は

「今日はこれから、各分團に於ける生活状態を反省しなさい。そして特別よい生活をした團員を報告して下さい。」

それからもう一つは、皆さんにお知らせすることでありませう。それはこの間の町の聯合常會で、町全體八十七の町會内に、一人づつ、皆さんの世話をするために少年團連絡係といふのが、置かれることになりました。勿論それは大人の方であります。皆さんの良いところや、皆さんの悪いところなどを見て下さつて、學校へ連絡をしてくれることになりました。」

といふ話をした。話が終ると、再び頭中の敬禮をした。それが終ると、全體が御眞影奉安殿の方向にむきなほつて、拜禮をした。拜禮が終ると、一齊に青少年學徒に賜はつた勅語を奉誦した。それから各分團に分れて、生活の反省を行つた。

この頃の學校は、學校の中で學問を教へるだけではなくて、家庭の生活や、社會に於ける生活まで指導するといふことである。昔の學校は學校の中だけで——それも授業時間だけ本氣になつてやれば、休憩時間にいたづらしても先生が氣がつかかなかつた。授業が終れば、教師は子供の休憩時間であると共に教師の休憩時間だと考へて、男の先生は煙草を飲む時間にあて、女の先生は、お茶を飲む時間にしてゐた。此の頃の先生は休み時間に運動場に出て、子供の相手になつてゐる。相手になるばかりでなしに子供の機械體操の指導をしたり、跳箱の指導をしたりしてゐる。そればかりでなしに、少年團訓練を行つて、校外生活の指導までやるのだから大變だと思つた。いつか石井先生が

「今までは、先生は樂な職業だ。家の子供は體が弱いから教師にしようなどといつて教師にしたものだが、近頃の教師は體が弱くてはつとまりません。朝の七時から、夜の七時までの勤務ですからね」

と、おつしやつたことがあるが、この學校の様子を見ると、正にその通りであつた。少年團訓練で、學校の外の生活を反省させ、お互に切磋させるといふことは、本當に見上げたことである。それにしても學校のやり方に對して一體父兄がどれ位理解してゐるだらうか。少年團が出来たとき、ある父兄は學校がまた變なことを始めたといつて、非難するものがあつたが、少年團は文部省の命令で、初等科三年以上の子供をもつて、全国的に組織されたものであつて、學校が勝手につくつたものではないのに、自分勝手な解釋をして學校を非難するのだから、あきれざるを得ないと思つた。

大谷の少年團の常會には、親が子供と一しよに來て、親子一しよの會議をやつてゐるといふことを聞いたが、大變よいことだと思つた。

岩崎では三橋壽司店の主人が非常に熱心に少年團の世話をしてゐる。毎月一日と十五日の神社清掃日には、三橋さんがさきだちで出かける。そして出席簿の整理やら、其の他一切の世話をしてゐる。毎月の少年常會は、三橋さんの家で開く。私財を投じて子供の面倒を見てくれる。親がかうであるから、三橋さんの子供の昭二もよく育つてゐる。何でもこの子は頭がいい上に性質がよく、その上よく働く子である。三橋さんは財力があるので、上級學校へ

入學させる事は出来るのであるが、身體が丈夫でないために、將來農業に従事させることにして高等科へよこしたのださうだ。子供の將來を考へて進學の指導を正しく行つてゐる三橋さんには頭が下がる。世の親は子供の頭とか、體とかを考へないで、無理にも上級學校へ入學させようとするものもあるが、これは大きな間違ひである。三橋さんの態度には感心の外はない。親がよければ子もよくなるもので、三橋さんの子供の態度は本當に立派である。あの子はいつでも實にしつかりした態度を持つてゐる。言葉遣ひといひ、行動といひ、あの子の體の中には個人主義や自由主義の一片をもはいつてゐないやうな感じがする。親も子も偉いが、受持の鵜澤先生も偉い。鵜澤先生は支那事變のとき決死隊に加つて、生きのこつた勇士であるだけに、子供の教育に實に熱心である。身を以つて子供を率ゐてゐるから、子供もよくなるわけである。日頃この學校を參觀して、そして學校を研究し、參觀するのは親の一つの義務だと思つた。

11 生活訓練

今朝の行事は生活訓練であつた。服装検査と衛生検査とが主な仕事であつた。各學級の子

供の頭髮の長さとか、皮膚の汚れとか、ボタンとか、帯のしめ方とか、爪の長さとかを一人々々調べてゐた。大抵の子供の服装は整つてゐた。中には代用ボタンをはめた子供もあつた。さういふ子供に對しては教師が賞揚の言葉を呈してゐた。子供の服装は一般に繼ぎのあたつてゐたものが多かつた。これも時局の影響であらう。どこの家庭でも出来るだけの節約をしてゐると見えて、奢侈の風が見えないのがよいと思はれた。

子供の爪のことであるが、爪はなかなか切りにくいものであるから、この學校では、各學級に爪切りの道具を備へつけて置いて、相互にきらせるやうにしてある。實に用意周到なやり方だと思つた。殊に驚いのは、親指の爪と、人さし指の爪が、他の指よりは、少し長く伸びてゐることであつた。先生にそのわけを聞いて見たら

「親指と人さし指の爪とは珠算のときに使ふので少しひつかゝりのある方が便利ですから……」

とおつしやつた。なるほどさういはればさうであるが、そんなにこまかな所まで先生方が注意をなされてゐようとは思はなかつたことが、はづかしくなつた。由紀子の家では、國彦一人だから多勢の子供を持つてゐる家庭よりは手がとどくとは思つたが、あんなにこまかい

所まで注意されては、まだまだ家庭の騷はおほまかだと思つた。何でも石井教頭先生がこまかな所まで氣がつくし、生活指導部長の實方先生が、実行力が強いために、この學校の生活訓練はよく行はれてゐることである。

さういへば、此の頃、子供の言葉が大變よくなつた。國彦が家庭で使ふ言葉もほとんど標準語に近いし、學校の運動場で使ふ言葉を聴いても、上品な言葉をつかつてゐる。言葉に對しては、學校全體が一丸になつて骨を折つて居るやうである。高等科の子供が、學校全體の指導者となつて、運動場や廊下で、子供の言葉を訂正してゐるのを見受けた。行川先生に伺つてみたら、行川先生は

「言葉遣ひは、學校では教室も運動場も同じやうによい言葉をつかはせることにしてゐます。追ひ追ひ家庭まで、さうしたいと思つてゐます。今までは家庭の言葉までは、注意しませんでした。が、學校の成績をあげるためには、家庭が大切でございますから、家庭と連絡をとりたいと思つてゐます」

といはれた。行川先生からそんなことをいはれて、由紀子は恐縮した。由紀子が小學校へ上つた時代の言葉は、今の言葉にくらべては、問題にならないほどわるかつた。九十九里辯の